

「品川区都市型観光プラン」(案)

平成 28 年 1 月

品 川 区

はじめに

品川区では、区の観光ビジョンの明確化とビジョン実現に向けての行動計画と推進体制の整備を目的に、平成 18 年にしながわ観光協会との共同で「品川区都市型観光アクションプラン」を策定しました。そして、この 10 年間、プランに基づいたさまざまな観光振興の取組みを進め、まち歩き観光の推進や観光拠点の整備など、一定の成果を挙げてきました。

しかし一方で、全国的な外国人観光客の増加や品川区周辺でのビジネス需要の高まりなど、しながわ観光を取り巻く環境も変化してきており、時代や社会環境の変化に対応した観光振興の取組みが必要になってきているといえます。そこで、このたび、前計画「品川区都市型観光アクションプラン」の計画期間の満了に伴い、しながわ観光をますます発展させていくために計画改定として本プランを策定することになりました。

観光事業の推進には、行政だけでなく、観光協会や区民、事業者、関連団体など、観光に関わるさまざまな主体との連携が不可欠です。そのため、本プランは、行政の取り組む施策のみを示した行政計画としてではなく、区民や事業者が一体となって観光事業を推進していくための取組みの方向性、考え方を示した計画として策定しました。

また、本プランは、品川区の全体的な構想を示す「品川区長期基本計画」（平成 26 年 4 月）やまちづくり分野の方針を定めた「品川区まちづくりマスタープラン」（平成 25 年 2 月）を上位・関連計画とする観光分野の計画であり、しながわ観光が目指すべき方向性を示すとともに、それを実現するための戦略とさまざまな施策を示した観光分野の「総合計画」としての性格をもちます。プランの推進にあたっては、国・東京都の上位計画や品川区の上位計画、各種まちづくり計画との整合、連携を図りながら進めていきます。

本プランの構成は、まず第 1 章において、計画策定の背景として、近年の観光振興の動向について整理し、この 10 年間のしながわ観光の取組みを評価・総括しています。第 2 章においては、しながわ観光の特徴と課題として、しながわの観光的特徴、しながわ観光を巡る社会情勢の変化について述べ、今後のしながわ観光の課題をまとめています。第 3 章では、しながわ観光のコンセプト・目標と計画期間、しながわ観光のマーケット、ターゲットの考え方を示しています。第 4 章では、しながわ観光の戦略と施策として、戦略 A～E の 5 つの戦略とそれに基づく施策を掲げてします。最後に、第 5 章として、プランの実現化に向けた推進体制について示しています。

品川区 都市型観光プラン 体系図

第1章 計画策定の背景

1-1 近年の観光振興の全国的動向

- ◆全国各地で進められている都市型観光
- ◆訪日外国人観光客の増加
- ◆観光を巡る地域間競争
- ◆観光振興に関わる国や都の動向

1-2 しながわ観光の“これまで”（評価・総括）

- (1) 品川区都市型観光アクションプランの概要
- (2) アクションプランに基づく取り組み状況（成果・課題）
 - ◆成果：まち歩き観光の推進、案内拠点の整備、多様な媒体を活用した情報発信
 - ◆課題：プロモーションの強化、各種環境整備、受入れ体制の充実

第2章 しながわ観光の特徴と課題

2-1 しながわの観光的特徴

- ◆点在する**歴史資源**
- ◆**水辺環境**をはじめとする豊かな自然
- ◆都内随一の元気な**商店街**
- ◆各地域で行われている**文化芸術・スポーツ**
- ◆発達した**交通ネットワーク**と恵まれた**立地**

2-2 しながわ観光を巡る社会情勢の変化

- ◆**外部環境の変化**
⇒羽田空港の国際化、2018年明治維新150周年、2020年リッパバ リンピック東京大会、2027年リニア中央新幹線品川駅開業
- ◆**内部環境の変化**
⇒ビジネス需要の高まり、大崎バスターミナル開業、五反田リバーステーションの整備

2-3 今後のしながわ観光の課題

- (1) しながわにおける観光とは
 - (2) 今後の課題
- ◆**水辺環境**を活かした観光の充実
 - ◆2020年リッパバ リンピック東京大会に向けた**国際観光、スポーツ観光**の強化
 - ◆**まち歩き観光**の更なる充実
 - ◆観光に係る様々な**連携強化**
 - ◆魅力を楽しむための**拠点の整備・充実**
 - ◆しながわ観光の知名度向上に向けた**プロモーションの強化**
 - ◆区民による**“もてなし力”**の向上
 - ◆**区民観光**の推進
 - ◆社会情勢の変化への対応

第3章 しながわ観光のコンセプト・目標

3-1 コンセプト・目標

繰り返し訪れて楽しいまち しながわ
～日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進～

3-2 計画期間

- ◆前期5年（H28～H32）⇒Before五輪
- ◆後期5年（H33～H37）⇒After五輪
- ※五輪後に必要に応じて計画を見直し

3-3 マーケット、ターゲットの考え方

- ◆しながわ観光のマーケット、ターゲットとその特徴

第4章 しながわ観光の戦略と施策

観光コンテンツの充実と情報発信

戦略A 観光コンテンツの充実 ～“しながわ”ならではの過ごし方の提供～

- A-1 ウォーターフロントを核とした賑わい創出
- A-2 商店街を活用した観光の推進
- A-3 歴史めぐり観光の推進
- A-4 スポーツ観光の推進
- A-5 文化・芸術観光の推進
- A-6 しながわショートトリップの推進

戦略B 情報発信の強化

- B-1 観光案内拠点の更なる充実
- B-2 多様な媒体を活用した**情報発信**
- B-3 情報の一元集約と発信
- B-4 他地域や宿泊・交通事業者等との**連携によるプロモーション**
- B-5 区民への適切な**情報発信**
- B-6 外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化

しながわ観光を支える仕組み・環境・体制の強化

戦略C 連携による魅力の向上

- C-1 交通との**連携**による魅力の向上
- C-2 区内の施設との**連携**による魅力の向上
- C-3 関連産業との**連携**による魅力の力向上
- C-4 広域**連携**による魅力の向上

戦略D 魅力的な環境づくり

- D-1 観光拠点・交通インフラの充実
- D-2 公共空間の観光活用の推進
- D-3 良好な**景観形成**
- D-4 **情報インフラ**の充実
- D-5 安全で安心な観光都市の形成

戦略E しながわ観光を支える体制の充実

- E-1 担い手の育成
- E-2 推進組織への適切な支援
- E-3 外国人観光客の受入れ体制強化
- E-4 観光統計等の整備

第5章 実現化に向けた推進体制

5-1 各主体の役割

⇒品川区、観光協会、区民、民間事業者、区民・ボランティアの各役割

5-2 観光振興の推進体制の強化

⇒区民、各種地域団体（まちづくり、ボランティア等）、観光関連事業者（宿泊、交通、物販、飲食、観光等）、観光協会、行政等の連携を深め、協働して取り組んでいくための協議会組織の設立

品川区 都市型観光プラン 目次

第1章 計画策定の背景 1

- 1-1 近年の観光振興の全国的動向 1
- 1-2 しながわ観光の“これまで”(評価・総括) 4

第2章 しながわ観光の特徴と課題 8

- 2-1 しながわの観光的特徴 8
- 2-2 しながわ観光を巡る社会情勢の変化 11
- 2-3 今後のしながわ観光の課題 13

第3章 しながわ観光のコンセプト・目標 16

- 3-1 コンセプト・目標 16
- 3-2 計画期間 17
- 3-3 マーケット、ターゲットの考え方 18

第4章 しながわ観光の戦略と施策 20

- 戦略A 観光コンテンツの充実～“しながわ”ならではの過ごし方の提供～ 22
- 戦略B 情報発信の強化 29
- 戦略C 連携による魅力の向上 33
- 戦略D 魅力的な環境づくり 37
- 戦略E しながわ観光を支える体制の充実 41
- 戦略・施策と施策の展開例 一覧 44

第5章 実現化に向けた推進体制 47

- 5-1 各主体の役割 47
- 5-2 観光振興の推進体制の強化 49

第1章 計画策定の背景

1-1 近年の観光振興の全国的動向

◆全国各地で進められている都市型観光

近年、社会の成熟化、価値観やライフスタイルの変化によって、観光のスタイルも多様化してきています。たとえば、名所・旧跡を訪ねる、温泉地に宿泊するというような従来型の観光に加えて、地域資源を活用したグリーンツーリズムやエコツーリズム、産業観光などの参加型・体験型の観光をニューツーリズムと位置づけて、新たな観光振興を図る動きが全国各地でみられます。

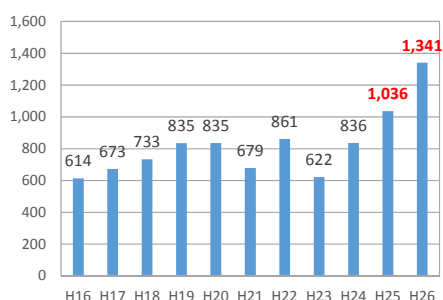
これまで品川区で進めてきたような地域の商店街や路地、祭りなど住民の生活・暮らしに触れて、都市内のまちあるきや飲食、買い物を楽しむという「都市型観光」もその一つであり、観光まちづくりの取り組みとして全国各地で展開されています。

◆訪日外国人観光客の増加

日本を訪れる外国人旅行者は年々増加を続けており、特に近年は、観光ビザ発給要件の緩和、LCCの就航拡大などを背景に著しく増加しています。平成25年（2013年）には、年間訪日外国人旅行者数が初めて1,000万人を超え、平成26年（2014年）には1,341万人に達しました。

「品川区都市型観光アクションプラン」（平成18年3月）を策定した約10年前と比較すると、その数は約700万人も増加しており、東京に限らず、全国各地で訪日外国人旅行者を見かけることが珍しくなくなりました。

また、日本政府は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会が開催されるまでの目標としていた「年間訪日外国人旅行者数2,000万人」の目標値を新たに「年間3,000万人」と掲げ、今後ますます多くの外国人旅行者が日本を訪れることが期待されます。



訪日外国人旅行者数の推移(万人)

◆観光を巡る地域間競争

全国的に少子高齢化、人口減少が進むわが国においては、今後の定住人口の増加が見込めないことから、観光振興によって交流人口の拡大を図り、地域を活性化させようと取り組む自治体が増えてきています。

様々な地域において、観光振興を政策の主要な柱と位置づけた取組みがはじまっていることから、今後、交流人口の獲得をめぐる観光における地域間競争は、地方部だけでなく、都市部においても、ますます激しくなっていくことが予想されます。そのため、これからの観光振興においては、地域固有の資源を再発見して磨きあげ、行政と市民が一体となって他地域と差別化した魅力を高めてアピールし、目的地としての認知度向上を図っていくことが必要になります。

◆観光振興に関わる国や都の動向

平成15年の観光立国宣言以降、平成18年12月の観光立国推進基本法の制定、平成20年10月の観光庁の設置など、わが国では観光振興を重要な国家戦略のひとつに据え、取組みを進めています。特に、ビジット・ジャパン・キャンペーンに代表される外国人旅行者の獲得に向けた事業は、力を入れて継続的に実施されている取組みです。

また、東京都でも、観光産業は「多くの産業に経済波及効果をもたらし、飛躍的な成長が見込まれる産業」として位置づけ、本格的な観光振興に取り組んでいます。そのひとつとして、平成25年5月に、今後5年の東京都の観光分野の取組みの方針を示す計画として「東京都観光産業振興プラン（平成25年5月）」を策定しました。「東京都観光産業振興プラン（平成25年5月）」では、観光産業振興に向けた施策展開として「戦略1：外国人旅行者誘致の新たな展開」、「戦略2：MICEの誘致」、「戦略3：魅力を高める観光資源の開発」、「戦略4：受入環境の充実」、「戦略5：人材の育成・活用」の5つの戦略を掲げています。

さらに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を受けて、「東京都長期ビジョン（平成26年12月）」の基本目標のひとつに「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」を掲げるとともに、「外国人旅行者の受入整備方針（平成26年12月）」を策定し、「世界一のおもてなし都市・東京」の実現に向けた取組みを進めています。「外国人旅行者の受入環境整備方針」に示された「重点整備エリア」には、品川区内のオリンピック競技場やお台場の品川区部分も含まれており、これらの地域では、特に外国人観光客への案内機能の向上が求められています。

「東京都観光産業振興プラン」観光産業振興に向けた施策展開

【戦略1】外国人旅行者誘致の新たな展開

- 旅行者層の嗜好、行動特性などをより詳細に分析した、きめ細かなマーケティングによる戦略の構築
- アジア市場を重視するとともに、新規市場開拓、FIT(個人旅行)・リピーターを重視したプロモーション
- ツイッター・フェイスブック等のSNSや、ウェブサイトなど、多様な媒体を活用した情報発信
- 共同プロモーションや観光ルート開発など、民間事業者・国・国内外の都市等との連携の推進

【戦略2】MICE誘致の推進

- M、I、C、Eの各ターゲットに応じた誘致戦略の構築と積極的な誘致プロモーション
- 主催者のインセンティブにつながるコンベンション誘致・開催資金助成の拡充と東京独自のアフターコンベンション・プログラムの開発
- 歴史的建造物や美術館等の文化施設などを「特別開催の場」とするユニークベニューの開発の促進
- 新たなMICE拠点の環境整備と、地域が一体的かつ強力に誘致・開催を進める体制の構築

【戦略3】魅力を高める観光資源の開発

- 民間事業者等と連携した外国人旅行者を惹きつける観光資源の開発・発信
- 都市景観、水辺空間など、質の高い都市空間の創造
- 食文化、アニメやファッション等、新たな潮流を観光資源として活用する取組の強化
- 多摩、島しょなど、地域の特性を活かした資源開発等、地域活性化につながる取組への支援

【戦略4】受入環境の充実

- SNSや公衆無線LAN、モバイルサイトなど、ICTを活用した情報提供の充実
- 道路、交通機関等における案内サインなどの多言語化の推進
- 宿泊施設等における緊急・災害時対応マニュアルの整備など、安心して過ごせる環境の確保

【戦略5】人材の育成・活用

- 地域のまちづくり等を担うリーダー、コーディネーターの育成・活用
- MICEの専門人材の育成・活用
- 観光ボランティアの育成・活用

1-2 しながわ観光の“これまで”（評価・総括）

品川区では、平成18年3月に、しながわ観光協会と共同で「品川区都市型観光アクションプラン」を作成しました。

このプランは、区としてはじめて観光振興の基本的な方向性を示したものであり、この10年間プランに基づいた様々な取り組みが行われてきました。品川区では、このプランの計画期間が満了したことと、先に示したような時代背景の変化を受け、この度の計画改訂に至りました。

（1）品川区都市型観光アクションプランの概要

前計画「品川区都市型観光アクションプラン」は、区内に点在する人々の暮らしに根ざした身近な観光資源（商店街、水辺、宿場・街道、祭り等）に焦点をあて、これら資源を発掘し、磨き上げ、輝かせることを基本としており、4つの基本戦略と8つの行動計画から構成されています。

先導的重要プロジェクトとして、「品川ウォーク（まち歩き）の推進」と「品川ウェルカムゲート（拠点づくり）」の2つのプロジェクトが挙げられています。



都市型観光アクションプラン
（平成18年3月）

「都市型観光アクションプラン」に位置づけられている基本戦略と行動計画

戦略①：地域を磨く！！

品川を体験するメニューをつくる **品川体験 10 メニュー**

品川を楽しむ舞台と仕掛けを整える **品川小劇場・感動 36 景**

戦略②：地域を自慢する！！

おしゃれをキーワードに品川を自慢する **品川おしゃれ向上委員会**

品川の国際的魅力を自慢する **品川グローバルプラン～世界が参加する品川**

品川の魅力をパッケージ化する **住民がつづる品川物語～地域が描く気ままな絵日記**

戦略③：自慢を発信する！！

品川の魅力情報を一元的に発信する **品川チャンネル～コアな品川情報の収集・発信**

地域外に効果的に品川の魅力を発信する **品川サポーターシステム**

戦略④：旅人をもてなす！！

人と知恵と活力をつなぐ **品川もてなしサロン**

（２）アクションプランに基づく取組み状況（成果・課題）

この10年間、区と観光協会の共同で、前計画「品川区都市型観光アクションプラン」の4つの戦略と2つの先導的重要プロジェクトに基づいた、様々な取組みを実施してきました。また、プランに基づく取組みのほかにも、区の関連各課や区内の観光関連団体・区民団体等によるイベント・ツアー等が積極的に実施しています。

◆戦略①：地域を磨く！！

戦略①については、既存の資源を来訪者の視線で見直し、磨きをかける取組みとして、この10年間「まち歩き」と「水辺活用」に関する取組みを積極的に推進してきました。特に、「つまみ食いウォーク」や「しながわ発見 観光まち歩き」などのまち歩きイベントは毎回多くの参加者が参加し、品川区のまち歩き観光が定着してきているといえます。

また、水辺活用に関しては、「運河クルーズ」や「目黒川桜クルーズ」、「目黒川イルミネーションクルーズ」など、年間を通して舟運を活用した取組みに力を入れています。官民連携による水辺活用は、都内や全国で活発化してきており、今後の期待も高まっていますが、その促進のためには、栈橋や休憩施設などの施設・環境の整備や一般市民の水辺利用規制の緩和などが課題となっています。



つまみ食いウォークの様子



しながわ運河クルーズの様子

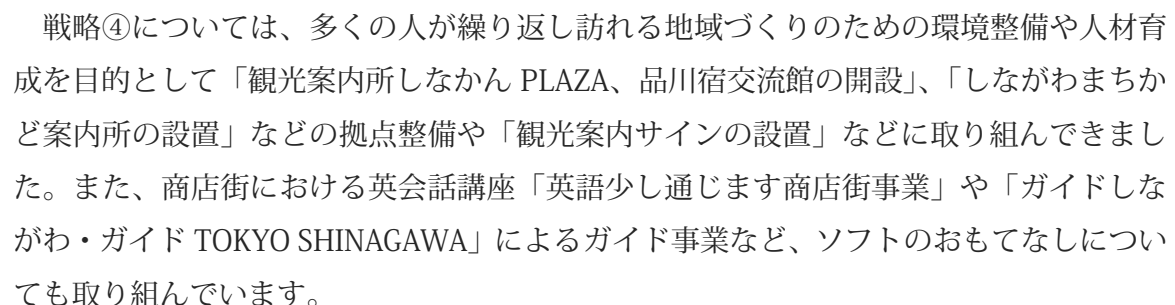
◆戦略②：地域を自慢する！！

戦略②については、区民自らが地域を見直し、自慢することを目的に、「しながわみやげコンペティション」、「伝統の技と味 しながわ展」など、地域の資源や伝統を見直し、商品づくりにつなげる取組みを行ってきました。特に、「しながわみやげコンペティション」は毎年多数の応募があり、これまでに30点の「しながわみやげ」が認定されるなど、少しずつ「しながわみやげ」認知の成果をあげています。

また、国際的にしながわアピールするための「多言語パンフレットの作成」や「英語少し通じます商店街事業」などの取組みも進めており、外国人旅行者を受け入れる環境が少しずつ整ってきているといえます。しかし、今後ますます増加が予想される外国人観光客に対しては、区民意識の醸成や人材育成などの点で受入れ体勢の充実を図っていく必要があります。



戦略③については、魅力情報の収集と地域内外の多くの人への情報発信を目的とした取り組みを精力的に行ってきました。例えば、「駅貼りポスターの作成」、「るるぶ品川の発刊」、「しながわ観光マップ・パンフレットの作成、配布」など紙媒体による情報発信から、「しながわ観光協会ホームページの更新」、「スマートフォンアプリ『しながわ巡り』」、「観光PR 動画の作成」などインターネットを通じた情報発信まで、これまでに多様な媒体による情報発信を行い、一定の成果が得られています。





拠点として整備された「しなかん PLAZA」、「品川宿交流館」

◆先導的重要プロジェクト

先導的重要プロジェクト「品川ウォーク（まち歩きの推進）」については、平成18年から継続して「しながわ商店街お宝発見・つまみ食いウォーク」を実施しており、毎回3,000人前後の参加者が参加する大イベントとなっています。また、その他にも「しながわ発見 観光まち歩き」や「文化財めぐりツアー」など様々なテーマによるまち歩きイベントを行うなど積極的に推進され、品川区におけるまち歩き観光はある程度定着してきたといえます。

もう一つの先導的重要プロジェクト「品川ウェルカムゲート（拠点づくり）」については、「品川宿交流館」、「しなかん PLAZA」などの情報交流拠点の整備をはじめとして、観光情報誌、観光マップなどの情報発信ツールの充実を図っており、一定の成果が得られています。

以上のように、先導的重要プロジェクトについては、この10年間継続に取り組まれ、十分に推進されてきたといえます。

◆アクションプランに基づく取組みの成果と課題

以上のように、この10年間、アクションプランに基づいて様々な分野で多くの取組みが実施され、一定の成果をあげてきました。今後は、これまでの成果をしっかりと発展させ、課題を解決させて観光振興を推進していくことが重要です。

■アクションプランに基づく取組みの成果

- ・まち歩き観光の推進
- ・案内拠点の整備
- ・ホームページなど多様な媒体を活用した情報発信

■アクションプランに基づく取組みの課題

- ・プロモーションの強化
- ・各種環境整備
- ・受入れ体制の充実（区民意識の醸成、人材育成）

第2章 しながわ観光の特徴と課題

2-1 しながわの観光的特徴

品川区には、東京タワーや東京スカイツリーのように、それだけで強力な集客力をもつ観光資源は存在しません。しかし、まちを歩けば、幕末から明治にかけての歴史を感じられるスポットや自然豊かな水辺・公園、個性的な商店街など、しながわでしか出会うことのできない多様な魅力が随所に点在しています。このようなまちの歴史や生活の営みに根ざした地域の資源は、そこに生活する区民にとってはありふれたものかもしれませんが、その見せ方や伝え方の工夫次第で、外から訪れる人にとってとても魅力的なものになります。この点で、しながわのまちは、まちを歩きながら、まちの歴史や生活、まち自体を楽しむ、都市型観光に大変適しているといえます。

また、以上のような地域の資源の他にも、区外にも比較的知名度が高く、区を象徴するような資源として、しながわ水族館や大井競馬場などの施設が挙げられ、品川区における都市型観光では、これらの施設をうまく活用していくことも重要になります。

◆発達した交通ネットワークと恵まれた立地

しながわのまちは、江戸時代より旧東海道の第一の宿場、交通、交易の要所として栄えてきた場所です。交通の便の良い恵まれた立地であったからこそ、現在も寺社仏閣や歴史資源が多く残り、かつてのまちの営みを感じることができます。

交通の便の良さは、現在のまちにも共通した特徴であり、羽田空港、品川駅など都内有数の交通ターミナルに隣接した東京の玄関口としての特徴を有しています。特に近年は、羽田空港や品川駅を利用するビジネス客の区内宿泊が多い傾向がみられるほか、品川を拠点として各地を旅行する外国人旅行者がみられることから、今後、滞在や観光のハブとしての機能が期待されます。

また、他にも、JR線、東京モノレール、東急大井町線、東急池上線、京浜急行線、都営浅草線など、様々な鉄道による発達した鉄道ネットワークによる交通の便の良さも品川区ならではの特徴です。これらの路線により、沿線の多くの地域とつながっていることで、短時間の気軽な観光から長期の滞在型の観光まで、様々なスタイルの観光を楽しんでもらうことができます。

◆点在する歴史資源

江戸時代に東海道の第一宿として栄えた旧東海道品川宿をはじめ、東海七福神をまつる寺社仏閣、各地域で行われている祭礼・行事、幕末から明治にかけて活躍した偉人の墓など、品川区には多様な時代の歴史資源が存在します。特に、旧東海道品川宿や各地域の祭礼は、日本人だけでなく外国人からも人気が高く、まち歩きに訪れる人は後をたちません。ほかにも、土佐藩の浜川砲台跡や板垣退助の墓など、明治維新関連の資源が充実しているほか、品川歴史館での常設展、企画展では、原始・古代から現代にいたるまでの品川の歴史を学ぶことができます。

また、古くからその技術が受け継がれてきた伝統工芸・ものづくりの技術も品川の歴史を感じることができるもののひとつです。区内には、表具や桐箆笥、金網細工などの伝統工芸の職人がいるほか、ものづくりのまちとして栄えた大崎地区には、金属、機械、化学関連の町工場も集積しています。



北の天王祭（品川神社例大祭）



品川職人組（伝統工芸保存会）

◆水辺環境をはじめとする豊かな自然

都内では、水面を有する区が少なく、水辺にふれ合える場所も限られていますが、品川区内には、目黒川、品川浦、京浜運河、天王洲アイルなど、季節や時間によってその表情をかえる多様で豊かな水辺が存在します。これらの水辺では、季節ごとにクルーズや屋形船による周遊が楽しめるほか、シーカヤックやEボートなどのアクティビティを楽しむこともできます。

また、水辺だけでなく、四季を感じられ、スポーツや身近なレクリエーションの拠点となっている公園・庭園が多く存在することも品川区の魅力です。豊かな緑を体験できる「都立林試の森公園」をはじめ、「戸越公園」や「ねむの木の庭」、「東品川海上公園」、「しながわ区民公園」など多くの公園が存在します。



屋形船・クルーザー



ねむの木の庭

◆都内随一の元気な商店街

都内随一の元気な商店街が多数集まることもしながわならではの魅力です。「戸越銀座商店街」、「武蔵小山商店街」、「荏原町商店街」、「旗ヶ岡商店会」など、都内では珍しくなってしまった地域の生活に根ざした個性豊かな商店街が多数存在します。これらの商店街では、地域の台所として毎日のように地域住民でにぎわうほか、全国から観光客が訪れる商店街もあります。また、平成18年から始まった「つまみ食いウォーク」では、毎回3,000人以上の参加者が集まるなど、観光資源としても活用されています。ほかにも、バルイベントやまちゼミなど、各商店街独自の取組みも活発に行われています。



武蔵小山商店街



バルイベント（戸越銀座商店街）

◆各地域で行われている文化芸術・スポーツ

また、近年は文化芸術・スポーツに関するイベントなどの取組みも盛んで、しながわの特徴の一つとなっています。平成22年度から毎年開催されている区民芸術祭は、区内を拠点に活動するイラストレーターや造形作家、劇団、ダンサー、演出家など様々なジャンルのアーティストの作品を紹介する展示やコンサート、舞台などの様々なイベントを区内各地で開催しています。

また、区民スポーツ大会、しながわマラソン大会などのスポーツイベントも積極的に行われており、しながわを代表するイベントの一つとなっています。他に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定してからは、区内開催競技であるブラインドサッカーやホッケーのフェスタを開催し、区民に周知するとともに、区民意識の醸成につとめています。



品川区民芸術祭（企画展）



ブラインドサッカー出前体験教室

2-2 しながわ観光を巡る社会情勢の変化

前計画「品川区都市型観光アクションプラン」策定時から、この10年間でしながわ観光をとりまく社会情勢は大きく変化しました。また、外的な社会情勢の変化に加えて、今後、品川区内でも様々なイベント・整備などが予定されており、品川区を区内外にアピールしていく好機にめぐまれます。主に品川区周辺での変化、品川区内での変化について、それぞれ以下にまとめます。

◆外部環境の変化

品川区周辺で起きている変化について、インパクトの大きいものに「羽田空港の国際化」があります。平成22年に羽田空港国際線ターミナルが開業し、それに伴って訪日外国人旅行者の数も増加しました。羽田空港に近接している品川区においても、外国人旅行者が訪れる機会は増加しているといえます。

また、2018年（平成30年）には「明治維新150周年」を控えており、板垣退助の墓や坂本龍馬像など、明治維新に係る歴史資源を多く有する品川区にも、多くの人が訪れることが期待されます。

2020年（平成32年）には「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」が予定されており、区内に2つの競技会場を有する品川区にも多くの人が訪れることが予想されます。

さらに、2027年には「リニア中央新幹線の品川駅開業」が予定されています。品川駅に近接している品川区においても、広域ネットワーク拠点としての役割が期待されます。

◆内部環境の変化

区内の特筆すべき変化としては「ビジネス需要の高まり」が挙げられます。旧来からものづくりのまちとして発展してきた大崎駅周辺の再開発や品川駅や大井町駅周辺にビジネスホテルが多く立地していることにより、品川区におけるビジネス需要が高まっています。

また、平成27年に大崎駅西口に「大崎バスターミナル」が開業しました。これは、大崎駅と地方都市を結ぶ高速バスのターミナルとして整備されたものであり、今後、大崎駅が拠点となり、周辺に新たな人の流れができることが期待されます。

さらに、2019年（平成31年）には「五反田リバーステーションの整備」が予定されています。これは、舟運や水辺のにぎわい拠点として整備され、区内における舟運移動だけでなく、都内各地における舟運事業との連携も期待されます。

しながわ観光を巡る社会情勢の変化

年	これまでの出来事・これからの出来事
平成18年（2006年）	品川区都市型観光アクションプラン 策定
平成22年（2010年）	羽田空港 国際線ターミナル 開業
平成27年（2015年）	大崎バスターミナル オープン
平成30年（2018年）	明治維新150周年
平成31年（2019年）	五反田リバーステーション オープン（予定）
平成32年（2020年）	東京オリンピック・パラリンピック
平成39年（2027年）	リニア中央新幹線 品川駅 開業（予定）
...	

2-3 今後のしながわ観光の課題

先に述べたように、品川区内には単独で強力な集客力をもつ資源は存在しませんが、地域の歴史や自然や暮らしが感じられる小さな資源がたくさん点在しており、それこそがしながわ観光の魅力といえます。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会をはじめとして、今後予定される様々なイベント・整備などにより、品川区を区内外にアピールしていく好機にめぐまれます。

以上のような、しながわの観光的特徴（ポテンシャル）としながわ観光をめぐる社会情勢の変化（機会）をふまえて、今後のしながわ観光の課題を以下にまとめます。

（１） しながわにおける観光とは

品川区では、この10年間、前計画「品川区都市型観光アクションプラン」に基づいて、地域のなかにある色とりどりの魅力をテーマ性のもとに横断的に束ねて、効果的にアピールすることによって、多くの人で賑わい、交流の歓びがあふれる「都市型観光」を推進し、成果を積み重ねてきました。今後のしながわ観光においても、これまでの「都市型観光」の精神を受け継ぎ、これまでの変化とこれからの変化に対応し、さらに発展させていくことが基本となります。

また、しながわ観光においては、観光関係者だけでなく、区民自身が普段は来訪者の目に触れることが少ない区内の魅力をていねいに拾い出し、磨きをかけていくことが重要です。さらに、区民だけでなく日常的に区内の魅力に触れている就業者の参加も重要となります。このため、官民が連携し、それぞれの役割でしながわ観光を推進していくことを目指します。

（２） 今後の課題

今後、より一層の観光振興を図る上で、品川区全体で取り組んでいく必要がある課題は、以下の9つになります。

- 水辺環境を活かした観光の充実
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた国際観光、スポーツ観光の強化
- まち歩き観光の更なる充実
- 観光に係る様々な連携強化
- 魅力を楽しむための拠点の整備・充実
- しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーションの強化
- 区民による“もてなし力”の向上
- 区民観光の推進
- 社会情勢の変化への対応

◆水辺環境を活かした観光の充実

品川区では、目黒川や天王洲アイランド、勝島運河等の多様な水辺環境や水辺での活動が代表的な資源の一つとなっていますが、区内外の知名度などからみて、それらの資源が十分に観光に活かしきれていない状況です。今後、水辺環境を活かした観光の充実を図っていくためには、水辺利用のための環境整備や活動団体間の連携が課題といえます。

◆2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた国際観光、スポーツ観光の強化

多くの人が品川区を訪れる好機となる 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けては、Before 五輪、After 五輪を見据えた取組みが重要となります。特に、After 五輪については、五輪レガシーを活用したスポーツ観光に取り組んでいくことが必要となります。

◆まち歩き観光の更なる充実

この 10 年間、様々なかたちで積み上げてきたまち歩き観光の取組みについては、テーマやルートを充実させ、さらに発展させていくことが重要です。そのためには、ボランティアガイドなどの人材育成も課題となります。

◆観光に係る様々な連携強化

先にも述べたように、都市型観光は、観光関係者で取り組むだけでは成り立ちません。それぞれの主体が『品川都市型観光』の理念を理解し、それぞれの立場で観光に関わっていくことが必要です。そのためには、区内観光事業者、区内交通事業者、区内団体、周辺自治体、東京都等、様々な関係者との連携強化を図ることも課題といえます。

◆魅力を楽しむための拠点の整備・充実

先述したように、品川区では、これまでも「品川宿交流館」や「しながわ PLAZA」など情報交流拠点を整備してきました。しかし、今後、まち歩き観光をさらに充実させていくにあたっては、区内の要所にしながわの魅力や PR する観光案内所等の情報発信拠点を整備・充実させていくことが必要となります。

◆しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーションの強化

品川区では、この 10 年間、区内の資源の磨き上げに取り組んできましたが、外の人からみた品川区に対する観光の知名度は、まだ高いとはいえません。今後は、これまでの取組みを底上げしていくよう、しながわ観光の知名度向上に向けたプロモーション強化を図ることが課題であるといえます。

◆区民による“もてなし力”の向上

しながわ観光においては、区民と来訪者の交流も重要な要素です。区民のちょっとしたおもてなしが来訪者に満足感を与え、再来訪を促すことにつながります。また区民自身が来訪者を迎え、もてなすことは、自分たちが住んでいる地域を振り返り、見つめ直すきっかけにもなるものです。今後のしながわ観光においては、区民自らが地域への理解を深め、区民自らが来訪者をお迎えし、おもてなしできるようになることが重要です。

◆区民観光の推進

しながわ観光においては、区民自身が品川区を楽しみ、魅力を再認識し、その魅力を発信していくという、区民観光の推進が不可欠です。具体的には、区民自らが区内の観光資源を巡ったり、イベントに参加したりすることで、自らの地域への理解や愛着を深めるとともに、区内の様々な魅力を口コミなどで発信していくことが重要です。

◆社会情勢の変化への対応

先にも述べたように、近年の品川区周辺の変化として、外国人旅行者の増加やビジネス需要の高まりが挙げられます。これらの社会情勢の変化に対応して、受入れ体制の強化やサービスの供給など、区で一体となった体制の整備が課題となります。

また、全国的に活動の高まりを見せている水辺利用についても、他地域の事例などを参考にしながら、近隣区と連携し、引き続き取り組んでいくことが必要となります。

第3章 しながわ観光のコンセプト・目標

3-1 コンセプト・目標

◆これまでの取り組みの継承 ～都市型観光の継続的展開～

本プラン「1-2 しながわ観光の“これまで”」において述べたように、品川区ではこれまで、都市内の風情ある商店街や、都市内の憩いの場である水辺や公園、地区の祭事や史跡・旧跡といった、都市の暮らしに密着した身近な観光資源を“まち歩き”などを通じて楽しむという「都市型観光」を推進してきました。またこうした取り組みを通じて、まち歩き観光の推進、案内拠点の整備など、着実な成果を挙げてきました。

今後の観光振興においてもこれまでの「都市型観光」を継承し、商店街や水辺・公園、史跡・旧跡といった身近な観光資源の魅力を高め、これらをより多くの人が楽しめる仕組みや環境を充実させていくことが重要です。

◆まちづくりの一環としての観光振興 ～官民連携による観光まちづくりの推進～

上述した、生活環境を観光資源とする「都市型観光」を推進していくためには、観光に係る事業者や行政のみならず、生活環境の主役である区民の方々との連携・協力が必要不可欠です。また、品川区における都市型観光は、事業者を中心とした観光産業の振興というよりも、“まちづくりの一環としての観光”“区民も楽しめる観光”といった視点で進めていくことが重要であり、観光まちづくりを通じて、水辺や公園、商店街といった生活環境の質の向上を図っていくことが重要です。

◆新たな時代への適切な対応 ～新たな顧客の獲得、五輪レガシーの活用～

一方、品川区とその周辺においては、羽田空港の国際化やビジネス需要の高まりなどの変化が起こっています、またさらに今後は、明治維新 150 周年（平成 30 年）や 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会（平成 32 年）などのビッグイベントが控えています。特に、品川区内にその競技会場が設けられる 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会は、外国人を含めた多くの人々に品川区の魅力を知ってもらう絶好の機会となるものです。

また平成 22 年の羽田空港国際線ターミナルの開業、平成 27 年に予定されているリニア中央新幹線・品川駅の開業を考えると、今後、品川区及びその周辺は首都・東京の玄関口としての役割がより一層求められると共に、国内外からますます多くの観光客が訪れることになると考えられます。

今後の品川区の観光振興においては、こうした機会や環境の変化を上手く活かして、国内外の多くの人に品川区の魅力を知ってもらい、新たな顧客、しながわファンの獲得を目指し

ていくことが重要です。また 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に関しては、大会開催を通じて整備される施設や得られるノウハウ等を、観光振興のレガシー（未来への遺産）として役立てていくことも重要です。

◆繰返し訪れて楽しい観光都市づくり

品川区の観光資源は、生活に密着したものであるが故に奥深い魅力があり、光のあて方によって様々な色に光り輝くダイヤの原石のようなものです。また、水辺や公園、商店街、地域の祭礼といったように、気軽に何度も訪れることのできる観光資源が多いという特徴があります。このため品川区の観光振興においては、訪れるたびに新しい発見があるような、繰返し訪れて楽しい観光都市を目指していくことが有効であると考えられます。

以上を踏まえ、しながわ観光のコンセプト・目標を以下のように定めます。

<しながわ観光のコンセプト・目標>

繰返し訪れて楽しいまち しながわ

～日常の生活環境に着目した官民連携による都市型観光の推進～

3-2 計画期間

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会は大会期間中を通じて数多くの観光客が訪れるビッグイベントです。また開催にあたっては、国や東京都が中心となって様々な環境整備やプロモーションが行われる計画となっており、しながわ観光に与える影響は非常に大きいものと予想されます。

また 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に関しては、大会準備のみならず、開催によって得られるレガシー（未来への遺産）を、その後の観光振興に活かしていくことが重要であり、そのためには大会の前後を通じて一貫した考え方に基づいて観光振興に取り組むことが重要です。

以上を踏まえ、「品川区都市型観光プラン」の計画期間は、平成 28 年度（2016 年度）～平成 37 年度（2025 年度）の 10 年間とします。

また中間年がオリンピック・パラリンピック東京大会の開催年となるため、前期計画期間となる平成 28 年度～平成 32 年度を Before 五輪、後期計画期間となる平成 33 年度～平成

37年度をAfter五輪と位置づけ、平成32年度末を目処に必要な応じて、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催結果を踏まえた計画の見直しを行います。

＜計 画 期 間＞

平成28年度（2016年度）～平成37年度（2025年度）の10年間

前期計画期間（5年）：平成28年度～平成32年度

後期計画期間（5年）：平成33年度～平成37年度

※平成32年度末を目処に必要な応じて、オリンピック・パラリンピック東京大会（平成32年度開催）の開催結果を踏まえた計画の見直しを実施。

3-3 マーケット、ターゲットの考え方

品川区の都市型観光の特徴や近年の社会情勢の変化などを踏まえ、しながわ観光が今後特に重視していくべきマーケット、ターゲットの考え方を示します。

◆品川区民や区内就業者・就学者、近隣区民、沿線市民

先述のとおり、品川区の都市型観光は、生活や暮らしに身近な資源を活用した観光振興が基本となります。このため、遠来のいわゆる観光客のみならず、品川区民や品川区に通勤・通学している区内就業者・就学者、品川区を日常の生活圏としている近隣区民や鉄道沿線市民も、しながわ観光の大切な顧客と位置づけ、これらをターゲットとした観光振興に取り組んでいきます。

◆ビジネス客（国内外からの東京へ出張者）

品川区は、夜間人口よりも昼間人口の方が多く、ビジネスの街としての性格も有しています。また近隣には東京国際展示場などのコンベンション施設もあり、区内には多くのビジネス客の往来がみられます。このため、品川区の都市型観光においては、レジャー目的のいわゆる観光客のみならず、商用で東京を訪れるビジネス客についても大切な顧客と位置づけ、これらをターゲットとした観光振興に取り組んでいきます。

◆外国人観光客

近年のアジア圏を中心とする訪日外国人観光客の増加や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定を踏まえると、今後の観光振興においては外国人観光客の獲得に特に力を入れていくことが重要です。このため、外国人観光客もしながわ観光の主要なターゲットとして位置づけ、外国人観光客向けの観光プロモーションの実施やコンテンツの充

実、受入れ体制の強化など、外国人観光客の獲得の取り組みを積極的に推進していきます。

◆シニア世代

品川区内には、神社仏閣や明治維新に係る史跡などの歴史的資源や、東京有数の元気な商店街、潤いを感じられる水辺や公園等が区内各所に点在しており、こうした資源を活用した「まち歩き観光」は、品川区の都市型観光の大きな魅力の一つです。またこうした「まち歩き観光」は、近年の健康志向と相まってシニア世代に特に人気があると言えます。このため、今後の品川区の都市型観光の推進にあたっては、シニア世代にも注目して観光振興に取り組んでいきます。

第4章 しながわ観光の戦略と施策

品川区では、しながわ観光のコンセプト・目標である「繰り返し訪れて楽しいまち しながわ」の実現に向けて、以降に示す5つの戦略に基づいて観光施策、関連事業を推進していくと共に、事業者、関連団体、観光協会等の観光に係る取組みを支援していきます。

◆観光コンテンツの充実と情報発信 ～しながわ観光のプロモーション強化～

本プラン「2-1 しながわの観光的特徴」にも示したように、品川区内には、都市に潤いを与える水辺や公園といった自然資源、特色ある商店街、東海道や神社仏閣などの歴史資源など、多様な観光資源が点在しています。

しかしその一方で、区内の資源のほとんどは大規模商業施設等のように集客力の高い資源でなく、その多くは人々の暮らしや生活・文化に根ざした身近な資源です。このため、これら資源を、賑わいを生み出す“観光資源”として活用していくためには、観光コンテンツとしての魅力の向上と、適切な情報発信が必要不可欠です。

以上を踏まえ本プランでは、「戦略A 観光コンテンツの充実」「戦略B 情報発信の強化」をしながわ観光の戦略として位置づけ、これに基づく施策を推進していきます。

◆しながわ観光を支える仕組み・環境・体制の強化

品川区の観光的魅力をより一層高めていくためには、上述した「戦略A 観光コンテンツの充実」「戦略B 情報発信の強化」に加えて、しながわ観光を支える「仕組み」「環境」「体制」を強化し、官民一体となって観光振興に取り組んでいくことが重要となります。

「仕組みづくり」としては、観光に係りの深い交通や宿泊、商業（飲食、物販等）の各事業者との連携や、東京都や周辺区との連携が重要であり、また「環境づくり」としては、取り組みの基盤となる施設やインフラの整備が重要となります。さらに「体制づくり」としては、しながわ観光を支える担い手の育成や、推進組織への支援等を充実させていくことが重要です。

以上を踏まえ本プランでは、「戦略C 連携による魅力の向上」「戦略D 魅力的な環境づくり」「戦略E しながわ観光を支える体制の充実」を、しながわ観光の戦略として位置づけ、これに基づく施策を推進していきます。

しながわ観光の5つの戦略と施策の体系

観光コンテンツの充実と情報発信

戦略A 観光コンテンツの充実 ～“しながわ”ならではの過ごし方の提供～

- 施策A－1：ウォーターフロントを核とした賑わい創出
- 施策A－2：商店街を活用した観光の推進
- 施策A－3：歴史めぐり観光の推進
- 施策A－4：スポーツ観光の推進
- 施策A－5：文化・芸術観光の推進
- 施策A－6：しながわショートトリップの推進

戦略B 情報発信の強化

- 施策B－1：観光案内拠点の更なる充実
- 施策B－2：多様な媒体を活用した情報発信
- 施策B－3：情報の一元的集約と発信
- 施策B－4：他地域や宿泊・交通事業者等との連携によるプロモーション
- 施策B－5：区民への適切な情報発信
- 施策B－6：外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化

しながわ観光を支える仕組み・環境・体制の強化

戦略C 連携による魅力の向上

- 施策C－1：交通との連携による魅力の向上
- 施策C－2：区内の施設との連携による魅力の向上
- 施策C－3：関連産業との連携による魅力の向上
- 施策C－4：広域連携による魅力の向上

戦略D 魅力的な環境づくり

- 施策D－1：観光拠点・交通インフラの充実
- 施策D－2：公共空間の観光活用の推進
- 施策D－3：良好な景観形成
- 施策D－4：情報インフラの充実
- 施策D－5：安全で安心な観光都市の形成

戦略E しながわ観光を支える体制の充実

- 施策E－1：担い手の育成
- 施策E－2：推進組織への適切な支援
- 施策E－3：外国人観光客の受入れ体制強化
- 施策E－4：観光統計等の整備

戦略A | 観光コンテンツの充実

～“しながわ”ならではの過ごし方の提供～

品川区内に点在する資源の多くは、集客力の大きい大規模商業施設等とは異なり、地域の憩いの場である水辺や公園、生活を支える商店街など、区民の生活や暮らしに密着した身近な資源です。こうした資源を、観光資源として活用していくためには、資源そのものを加工せず売り出すのではなく、例えば、まち歩きツアーやイベントの中で活用していくといったように、観光コンテンツとしての付加価値を高めて売り出すことが肝要です。

またこうした観光コンテンツの充実を通じて、他の地域では体験できないような“しながわ”ならではの過ごし方、“しながわ”らしい観光スタイルを提供していくことが重要です。

しながわ観光の推進にあたっては、従来からの品川区の主要な観光コンテンツである「①ウォーターフロント（水辺）」「②商店街」「③歴史」に加えて、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定やビジネス需要の高まりといった近年の社会情勢の変化を踏まえた新たなコンテンツとして「④スポーツ」「⑤文化・芸術」を取り上げ、これらの充実を図っていきます。

さらに上記に加えて、区内就業者やビジネス客をターゲットとしたアフター5観光や、乗換えなどの空き時間を活用した観光、鉄道駅を起終点としたまち歩き観光など、短時間で楽しめる観光プログラムの充実を目指して「⑥しながわショートトリップ」を推進していきます。

施策A-1 ウォーターフロントを核とした賑わい創出 ～水辺・舟運の観光活用～

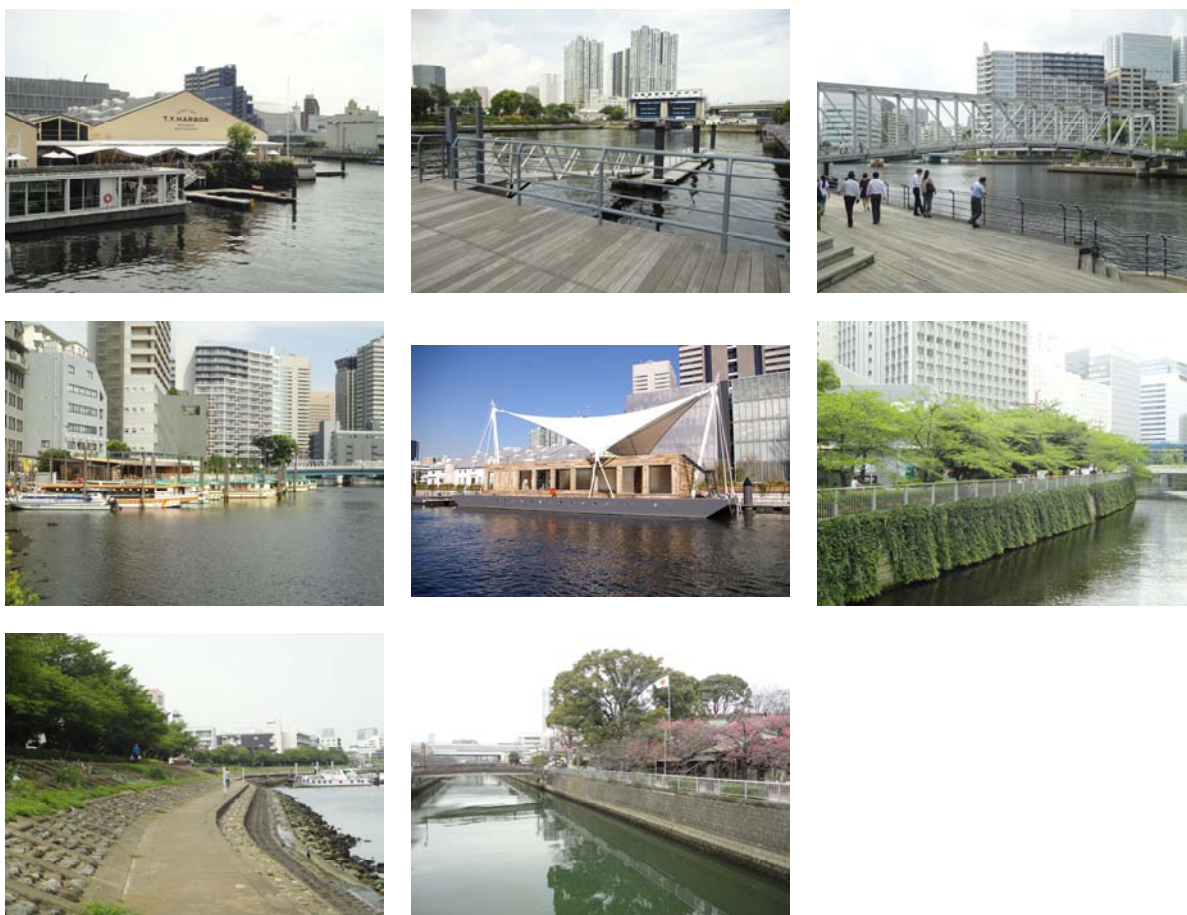
運河や河川の水辺、運河や河川を活用した観光舟運は、しながわ観光を特徴づける重要なコンテンツです。水辺についてはこれまで、天王洲や勝島運河、目黒川等において、地域の事業者や市民団体、行政等が中心となって、船着場や花壇などの各種環境整備、イベントの開催等の観光活用に関する様々な取り組みが行われてきました。また運河や河川を活用した観光舟運に関しては、事業者、観光協会、行政が協力しながら、観光舟運の利用促進に向けた取り組みが行われてきました。

また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の競技会場である「大井ふ頭中央海浜公園」（ホッケー、ブラインドサッカー）、「潮風公園」（ビーチバレー）は何れも品川区のウォーターフロントに位置しており、五輪に向けて品川区のウォーターフロントは今後ますます注目が高まるものと考えられます。

今後のしながわ観光の推進にあたっては、こうしたこれまでの取組みを継承・支援しつつ、「水辺の観光利用の促進」「観光舟運の活性化」「舟運による広域連携」等の取組みを推進し、

ウォーターフロントを核とした賑わいの創出を図っていきます。

特に、舟運事業者が集積すると共に、水辺にデッキや栈橋、レストランといった魅力的な施設が整備され、また水辺を活用したまちづくりが展開されている天王洲・品川浦地区に関しては、「水辺・舟運の観光拠点」として位置づけ、品川区内の船着場や、船着場を有する区外の観光拠点（羽田空港、お台場、秋葉原、日本橋、浅草など）との結ぶ舟運コースの設定や連携イベントの実施などを通じて、積極的な活用を図っていきます。また更に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えて、品川区の「水辺・舟運の観光拠点」として積極的なPRを図っていきます。



<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆水辺の観光利用の促進

- 水辺を活用したイベント等の開催 【関連団体、事業者、観光協会、行政】
- ケータリングカーの設置等、水辺に親しんでもらうための仕掛けづくり 【事業者、行政】
- まち歩きや散策ルートとしての水辺の活用 【関連団体、事業者、観光協会】
- E ボートやカヤック等の水上スポーツの場としての活用 【関連団体】
- 区内の水辺、栈橋・船着場の新たな観光活用・活性化方策の検討 【行政】

◆観光舟運の活性化

- 舟運を活用した各種観光ツアー、観光プログラムの充実 【事業者、観光協会】
- まち歩きツアーとの連携（「まち歩き」＋「舟運」のパッケージツアー等の開催 【事業者、観光協会】
- 区内船着場の利活用方策の検討 【行政】

◆舟運による広域連携

- 舟運の活性化に関する東京都や周辺区との調整・検討 【行政】
- 舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進 【事業者、行政】

◆天王洲・品川浦地区における「水辺・舟運の観光拠点」の形成

- 親水デッキや船着場等を活用した水辺の賑わい創出（イベント開催、水辺への飲食店等の誘致） 【事業者】
- 舟運事業者との連携による新たな観光ツアー、観光プログラムの充実 【事業者、観光協会】
- 舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進 【事業者、行政】
- 船着場と品川区内の船着場を結ぶ舟運ルートの検討 【事業者、行政】
- 「水辺・舟運の観光拠点」として積極的なPR 【事業者、観光協会、行政】

施策A-2 商店街を活用した観光の推進

品川区には元気で活力のある商店街が数多く点在しており、これら商店街の中には身近な観光スポットとして区外からもお客さんが訪れるような商店街もあります。また、これまで品川区内では、こうした元気で個性的な商店街の魅力を活かして、「つまみ食いウォーク」やバルイベントなどの集客イベントが継続的に行われており、こうした商店街を活用した集客イベントは、品川区を代表するイベントとして定着しつつあります。

また、区内各地域に点在する商店街は、区民の普段の生活・暮らしに密着した観光資源であり、品川区の目指す、生活環境そのものを舞台とした「都市型観光」の実践において欠かすことのできない重要な観光資源であると言えます。

このため、品川区の今後の観光振興にあたっては、「つまみ食いウォーク」やバルイベントといったこれまでの取組みの成果や課題を踏まえつつ、こうした商店街を活用した集客イベント等を継続的に開催していきます。



<施策の展開例>

※ 【 】内は想定される取組み主体

◆商店街と連携した集客イベントの実施

- 商店街と連携した集客イベントの開催 【事業者（商店街）、観光協会】
- 集客イベントへの支援 【観光協会、行政】

施策A-3 歴史めぐり観光の推進

品川区内には、旧東海道品川宿、荏原七福神や東海七福神などの歴史的資源が点在しています。また、品川区内には、板垣退助や伊藤博文の墓所、浜川砲台跡などの明治維新に係る史跡等が点在していることも大きな特徴です。

また近年、こうした品川区内の歴史資源を巡るツアー等は高齢者を中心に人気を博しており、団塊世代のリタイアという現状を考えると、こうした歴史資源を巡る観光プログラムに対するニーズは今後益々高まるものと考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、これまで実施してきた歴史資源を巡るツアー等を継続的に開催していくと共に、例えば品川歴史館との連携を図るなど、文化財行政とも連携・協力を図り、区内の歴史的資源の観光活用をより一層推進していきます。

さらに、平成30年の明治維新150周年にあわせて関連イベント等を実施します。

<施策の展開例>

※ 【 】内は想定される取組み主体

◆歴史資源を巡る観光プログラムの充実

- 歴史的資源を巡るツアー等の開催 【観光協会、行政】
- 文化財行政との連携による、歴史的資源の観光活用の推進（品川歴史館と連携した講座、ツアー等の開催） 【観光協会、行政】

◆明治維新 150 周年に係る取組みの推進

- 坂本龍馬、伊藤博文、板垣退助などの縁の地域との連携イベントの実施 【関連団体、観光協会、行政】
- 明治維新 150 周年記念イベントの実施 【関連団体、観光協会、行政】

施策 A-4 スポーツ観光の推進

品川区ではこれまでも、区民スポーツ大会、しながわマラソン等のスポーツイベントが行われてきました。また、区内の大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森は、第三種公認陸上競技場、野球場 6 面、人工芝グラウンド、テニスコート等を有する都内有数のスポーツ公園であり、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会では、ホッケーとブラインドサッカーの競技会場ともなります。

さらに近年は、健康志向の高まりから、ウォーキングやランニング、サイクリングなどが健康維持のための身近なスポーツとして、多くの人に人気を博しています。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、新たな観光コンテンツとして「スポーツ観光」を取り上げ、「観る」スポーツ観光、「する」スポーツ観光の両面から、スポーツをテーマとした観光振興に取り組んでいきます。また開催後についても、大会開催を通じて整備されるスポーツ施設や、得られるノウハウ等を観光振興のレガシー（未来への遺産）として積極的に活用していく事とします。

更に、品川区民がスポーツの魅力に触れる機会を増やしていくと共に、区民や区内就業者などがウォーキングやランニング、サイクリングといった身近なスポーツを楽しめるような機会を増やしていきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆「観る」スポーツ観光の推進

- （After 五輪）五輪レガシーを活用したスポーツイベントの積極的な誘致 【関連団体、行政】

◆「する」スポーツ観光の推進

- （Before 五輪）五輪開催に向けた関連スポーツイベントの開催 【関連団体、行政】

- ウォーキングやランニング、サイクリング等の身近なスポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備） 【関連団体、行政】
- 運河や河川の水辺を活かした E ボートやカヤック等の水上スポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備） 【関連団体、行政】
- 区民が参加できるスポーツイベント等の開催 【関連団体、行政】

施策A-5 文化・芸術観光の推進

品川区ではこれまで、区内のきゅりあん（大ホール）や、スクエア荏原（ひらつかホール）等の劇場、ホールを活用して区民芸術祭などの文化・芸術イベント等を行ってきました。また区内にはその他、十四世喜多六平太記念能楽堂といった伝統芸能に関わる施設や、劇団四季の専用劇場である四季劇場[夏]や天王洲銀河劇場といった民間の劇場もあり、こうした劇場等で開催される演劇やミュージカル、コンサートには年間を通じて多くの観客が訪れています。また更に、天王洲地区では地元協議会等が中心となってアートイベント等が開催されるなど、アートをテーマとしたまちづくり・活性化が進められています。

また区内には上述した劇場等の他、O美術館、原美術館、久米美術館といった美術館も点在しています。

このような現状を踏まえ、今後のしながわ観光においては、区内の劇場やホール、美術館等で開催されるイベント等についても、しながわ観光の重要な観光コンテンツとして位置づけ、「文化・芸術観光」を積極的に推進していきます。具体的には、関連団体や民間事業者と連携を図りながら、演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な誘致を行うと共に、観光協会と連携を図り、こうしたアートイベントの情報を観光関連サイトでも積極的に情報発信していくこととします。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な誘致・開催

- アートイベントの積極的な誘致・開催 【事業者、関連団体、行政】
- 民間主体の文化・芸術イベントへの支援 【行政】

◆演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な情報発信

- アートイベントの積極的な情報発信・PR 【観光協会】

施策A-6 しながわショートトリップの推進

品川区は、夜間人口よりも昼間人口が多いことから分かるように、ビジネスの街としての性格を有しており、こうした区内就業者やビジネス客（出張者等）もしながわ観光の重要

なターゲットです。また、品川区の周辺には東海道新幹線が発着する品川駅、国内線および国際線が就航する羽田空港がありますが、これら品川駅、羽田空港の利用客もしながわ観光の重要なターゲットです。こうした品川駅や羽田空港の利用者に対して、例えば出発までの数時間を活用して楽しめる観光プログラムを提供できれば、しながわ観光の裾野をより一層広げることが可能です。

さらに、鉄道網が非常に発達している品川区の場合、こうした鉄道駅を中心として、商店街や神社仏閣、水辺・公園等の資源を比較的短時間で巡れるような観光コースを充実していくことが有効であると考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、区内就業者やビジネス客等をターゲットとしたアフター5の観光や、品川駅や羽田空港の利用者が出発までの空き時間で楽しめる観光、駅などの交通拠点を基点としたまち歩き観光等、比較的短時間で楽しめる区内観光を「しながわショートトリップ」として位置づけ、その充実を図っていきます。

＜施策の展開例＞

※ 【】内は想定される取組み主体

◆区内就業者やビジネス客等をターゲットとしたアフター5観光の推進

- 商店街や飲食店と連携したアフター5イベントの開催 【事業者】
- 舟運事業者との連携によるナイトクルーズ 【事業者】
- アフター5観光の情報発信 【事業者、関連団体、観光協会】

◆品川駅や羽田空港利用者をターゲットとした「しながわショートトリップ」の推進

- 品川駅や羽田空港からの出発前の数時間に対応した観光プログラムの開発 【事業者、観光協会】

◆交通拠点を起点とした「しながわショートトリップ」の推進

- 鉄道駅を起点として、周辺の観光資源（商店街、歴史資源、水辺・公園等）を巡る短時間の回遊ルートの検討 【事業者、観光協会】
- 大崎駅西口バスターミナル周辺の観光資源を巡る短時間の回遊ルートの検討 【関連団体、行政】

戦略B | 情報発信の強化

本プラン「2-1 しながわの観光的特徴」に示したように品川区には多種多様な資源がありますが、これらを観光資源として活用していくためには、「戦略A 観光コンテンツの充実」によって内容の充実を図ると共に、こうした資源やコンテンツに関する適切な情報発信を行い、多くの人にその魅力を知ってもらうことが必要不可欠です。

今後の品川区の観光振興にあたっては、「①観光案内拠点の充実」「②多様な媒体を活用した情報発信」「③情報の一元的集約と発信」「④他地域や宿泊・交通事業者との連携によるプロモーション」「⑤区民への適切な情報発信」「⑥外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化」に取組み、情報発信をより一層強化していきます。

施策B-1 観光案内拠点の更なる充実

品川区では、前計画「品川区都市型観光アクションプラン（平成18年3月／品川区・しながわ観光協会）」に基づいて、観光案内所を開設しており、平成21年には旧東海道品川宿に「品川宿交流館」が、平成23年には大井町に「しなかん PLAZA」がそれぞれオープンしました。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、こうした既存の観光案内拠点の機能をより一層高めていくと共に、品川区を訪れる観光客の多くが利用する鉄道駅などの交通拠点における観光案内機能の強化を図るなど、観光案内拠点の更なる充実を図ることとします。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆既存の観光案内拠点の機能強化

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた外国人観光客対応の強化 【観光協会】

◆鉄道駅など交通拠点における観光案内機能の強化

- 鉄道駅における観光案内拠点の設置検討 【事業者（鉄道事業者）、観光協会、行政】

施策B-2 多様な媒体を活用した情報発信

観光庁が平成25年に訪日外国人観光客を対象に実施した調査によると、外国人観光客が日本滞在中に役に立った情報としては、「インターネット（スマートフォン）」（回答率39.8%）、「インターネット（パソコン）」（同36.8%）が最も多く挙げられており、外国人

観光客に対してはインターネットによる情報発信が有効であると言えます。

しかしその一方で、高齢者を中心に主にインターネット以外の手段で情報収集している人々も一定割合存在すると考えられることから、観光情報の発信にあたっては、インターネットの活用に重点を置きつつも、多様な媒体を活用した情報発信を基本とすることが有効であると考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えて、インターネット環境を活用した情報発信を強化していくと共に、紙媒体による情報発信や、マスメディアと連携した情報発信など、多様な媒体を活用した情報発信を進めていきます。

＜施策の展開例＞

※ 【 】 内は想定される取組み主体

◆インターネット環境を活用した情報発信の充実

- ホームページ情報の適切な更新・充実 【事業者、関連団体、観光協会】
- SNS やブログ等の個人の口コミ情報に着目した情報発信 【観光協会】

◆紙媒体による情報発信の継続

- 観光マップや観光パンフレットの発行・配布 【事業者、関連団体、観光協会】

◆マスメディアと連携した情報発信

- マスメディアへの適切な情報提供 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- テレビ番組などのロケ地の積極的な誘致 【観光協会、行政】

施策B-3 情報の一元的集約と発信

品川区の各地で開催されている地域の盆踊りや縁日、商店街のイベント等は、その地域の人にとっては日常的なイベントであったとしても、地域外の人にとっては新鮮なものとして受け取られる場合があります。特に外国人観光客にとっては、こうした土着的な祭礼やイベントこそが、その国の伝統や文化に触れることができるものとして魅力的に映ります。

しかし現状では、こうした品川区の各地で開催されている規模の小さい祭礼やイベントの情報が一元管理・発信されていないため、一般の観光客がこれらの情報を得ることが困難な状況にあります。

今後の品川区の観光振興にあたっては、これまであまり扱われてこなかった区内各地域の盆踊りや縁日、商店街のイベント等の情報についても一元的に集約を図ると共に、観光客が入手しやすいように適宜、情報発信を行っていきます。

＜施策の展開例＞

※ 【 】 内は想定される取組み主体

◆区内の各地域で開催される小規模な祭礼、イベントの情報を一元的に管理するための仕組みの構築

- 観光協会への情報集約の仕組みづくり 【事業者、関連団体、観光協会】

◆しながわ年間イベントカレンダーの公開・情報発信

- 観光協会のホームページを活用した、年間イベントカレンダーの公開、情報発信 【事業者、関連団体、観光協会】

施策B-4 他地域や宿泊・交通事業者等との連携によるプロモーション

観光プロモーションの訴求力を高めるためには、品川区単独ではなく近隣区や東京都等の他地域と連携・協働によるプロモーションを実施することが有効です。特に区の違いを意識しないと考えられる外国人観光客に対しては、品川区単独でPRするよりも、近隣区や東京都と共にPRした方が、マーケットに対する訴求力が高まります。

また、しながわ観光のプロモーションにあたっては、区内の宿泊事業者や交通事業者、旅行代理店と連携を図り、こうした民間事業者のノウハウを活かして、効果的・効率的にしながわ観光の魅力をPRしていくことが有効と考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、効果的・効率的なプロモーションを展開していくために、東京都や近隣区との連携、宿泊事業者や交通事業者、旅行代理店等の民間事業者との連携を図っていくこととします。

＜施策の展開例＞

※【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区等との連携による観光プロモーションの実施

- 東京都や国が主催する観光プロモーションへの参画 【行政】
- 近隣区との連携による観光プロモーションの実施 【行政】

◆宿泊事業者や交通事業者等との連携による観光プロモーションの実施

【事業者、観光協会、行政】

施策B-5 区民への適切な情報発信

商店街や水辺・公園といった身近な資源を活用した品川区の「都市型観光」においては、品川区民も重要なお客さんであり、区民による区内観光を促進することで、区内各地域の活性化と賑わい創出を図ると共に、本区への誇りや愛着を醸成することが重要です。また品川区民には、区外からの観光客をもてなし、案内する受け入れ側の主体としての役割も期待されます。

このため品川区の観光振興においては、その重要な顧客であり、また受入れ側の主体としても期待される品川区民に対して適切な情報発信を行い、区民観光を促進していきます。

＜施策の展開例＞

※【】内は想定される取組み主体

◆様々な媒体を活用した区民への観光情報の提供

- 「広報しながわ」における区内観光情報の掲載 【行政】
- 品川区広報番組における区内観光情報の発信 【事業者、行政】

施策B-6 外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化

平成15年の観光立国の宣言以降の国を挙げた取組みの結果、訪日外国人観光客は近年、大幅な増加傾向にあります。また、2020年に開催が決定しているオリンピック・パラリンピック東京大会では、数多くの外国人観光客が東京を訪れることとなりますが、こうした中であって、羽田空港からも近く、また競技会場も立地する品川区の注目度は今後高まるものと考えられます。

こうした状況を踏まえ、今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を外国人観光客を獲得する絶好の機会と位置づけ、海外向けの観光プロモーションを強化していきます。

＜施策の展開例＞

※【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区等との連携による海外向けプロモーションの実施

- 東京都や国が主催する海外向けプロモーションへの参画 【行政】
- 近隣区との連携による海外向けプロモーションの実施 【行政】
- 東京都や近隣区等との連携による海外のメディア、旅行会社の招請 【行政】

◆品川区の姉妹都市、友好都市へのプロモーションの実施

- 品川区の姉妹都市（ポートランド市／アメリカ合衆国）、友好都市（ジュネーヴ市／スイス連邦、オークランド市／ニュージーランド）、教育交流都市（ハルビン市／中華人民共和国）への観光プロモーション 【行政】

◆観光情報の多言語化

- 観光に係るホームページやパンフレット等の多言語化 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

戦略C | 連携による魅力の向上

品川区の観光振興を効率的、効果的に推進していくためには、事業者、関連団体、観光協会、行政等の関係者が相互に連携・協力し、各主体が有するノウハウや情報を相互に活用しながら取組みを進めていくことが重要です。

そこで、「①交通との連携」「②区内の施設との連携」「③関連産業との連携」「④広域連携」といった様々な連携を図ることで、しながわ観光の魅力をより一層高めていくこととします。

施策C-1 交通との連携による魅力の向上

品川区内には、鉄道、モノレール、バスといった公共交通機関が、網の目のように張り巡らされており、区内の何れの場所からも比較的安価に、簡単に移動することが可能です。また品川区は、首都・東京の玄関である羽田空港、品川駅から鉄道やバス等の公共交通機関で簡単にアクセス可能です。品川区内での観光行動の魅力を高めるためには、人々の観光行動において大きな時間を割くことになる「移動」そのものの魅力を高め、移動すること自体が楽しい観光地を目指すことが重要です。また、鉄道施設は、鉄道ファンにとってはそれだけで大きな魅力であり、こうした鉄道施設自体を観光資源として活用していくことも重要です。

今後の品川区の観光振興においては、公共交通網が発達した本区の特徴を十分に活かし、交通事業者と連携した観光プログラムづくり（まち歩きツアーやイベント）や、複数の交通事業者の連携による観光プログラムづくり、鉄道ファンをターゲットとした観光プログラムづくりなどを推進し、交通との連携によるしながわ観光の魅力向上を図っていきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆交通事業者と連携した観光プログラムづくり

- 交通事業者との連携によるまち歩きツアーの開催 【事業者、関連団体、観光協会】
- 交通事業者との連携による集客イベントの実施 【事業者、関連団体、観光協会】

◆複数の交通事業者の連携による観光プログラムづくり

- 鉄道事業者、バス事業者、舟運事業者等の連携による観光ツアーの造成 【事業者、関連団体】

◆鉄道ファンをターゲットとした観光プログラムづくり

- 鉄道撮影スポットの紹介 【観光協会】
- 鉄道事業者が開催するイベントとのタイアップ 【観光協会】

施策C-2 区内の施設との連携による魅力の向上

大井競馬場やしながわ水族館、きゅりあんや四季劇場[夏]、天王洲銀河劇場といったホール・劇場、東京五反田 TOC ビル（東京卸売りセンター）などは、年間を通じて数多くの利用者のある区内を代表する集客施設です。また小規模な会議の場として活用可能な品川産業支援交流施設 SHIP も、集客施設としての役割が期待されます。

このため、こうした区内の集客施設との連携を強化し、これら集客施設の利用者・来訪者に対してしながわ観光の適切な情報提供・PR等を行うなど、区内集客施設の利用者・来訪者のまちなか回遊を促す取組みを推進していきます。また、集客施設で開催されるイベント等の情報について、積極的に発信していきます。

さらに、品川区内に立地する13カ国の大使館や領事館との連携を図り、観光面での国際交流を推進していきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆区内集客施設との連携による利用者のまちなか回遊の促進

- 集客施設利用者へのしながわ観光の情報提供 【事業者、観光協会】
- 集客施設のイベント情報などの発信 【観光協会】

◆区内の大使館や領事館との観光・交流面での連携促進

- 区内のイベントへの参加要請 【行政】
- 各国への観光プロモーションの実施 【行政】

施策C-3 関連産業との連携による魅力の向上

品川区では、品川職人組が中心となって、伝統的なものづくりの技術による新製品の開発や、伝統工芸の実演等の活動が行われています。また、ものづくりの町としての側面も有する品川区には、ものづくりを行っている企業、工場が立地しています。これら、伝統工芸やものづくりは、観光のコンテンツにもなりえるものです。

また、品川区内にはビジネスホテル、シティホテル等の宿泊施設が立地しており、こうした区内施設への宿泊者は、しながわ観光の重要な顧客ともいえるべき存在です。

今後の品川区の観光振興にあたっては、伝統工芸やものづくりに係る体験プログラムの開発・実施や、区内宿泊者への観光情報の提供やモニターツアーの開催等、伝統工芸やものづくり、宿泊事業者といった関連産業との連携を推進していきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆伝統工芸・ものづくりとの連携による観光プログラムづくり

- 品川職人組（伝統工芸保存会）との連携による伝統工芸体験プログラムの実施
【関連団体、観光協会】
- 工場との連携による工場見学ツアーの開催 【事業者、関連団体、観光協会】
- 品川産業支援交流施設（SHIP）を活用した観光プログラムの実施 【関連団体、観光協会、行政】

◆宿泊事業者との連携による魅力向上の仕組みづくり

- 区内宿泊施設におけるしながわ観光の情報提供 【事業者】
- 区内宿泊者を対象としたモニターツアーの開催 【事業者、観光協会】
- 区内宿泊者へのニーズ調査 【事業者、観光協会】

施策C-4 広域連携による魅力の向上

より多くの観光客に品川区を訪れてもらうためには、区外の地域と連携することで観光的魅力を高めることが重要です。特に、東京を訪れる観光客は、区境を意識することなく観光行動を行うのが普通であり、こうした意味では、区境を越えた広域観光ルートの設定など、東京都や近隣区との連携が必要不可欠となります。品川区ではこうした認識に基づいて、平成21年から大田区と「品川・大田地域観光まちづくり推進協議会」を結成し、両区連携による観光まちづくりに取り組んでいます。こうした連携は今後も継続していくことが望まれます。

また近隣区との連携のみならず、品川区と縁のある地域との連携も有効です。品川区と交流協定を結んでいる地域や、明治維新や旧東海道に関して縁のある地域と、観光面で連携を図ることで、新たな観光客の獲得も期待できます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、広域連携による魅力の向上という視点に立って、近隣区との連携による広域観光ルートの設定、品川区と縁のある地域との連携を推進していきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区との連携による広域観光ルートの設定

- 区域を越えたまち歩きマップ等の作成 【観光協会】
- 品川・大田地域観光まちづくり推進協議会の取り組みの継続 【観光協会、行政】

◆品川区と縁のある地域との連携

- 品川区と交流協定を結んでいる地域との連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【行政】
- 明治維新（伊藤博文、板垣退助、坂本龍馬等）を手がかりとした国内他都市との

連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【行政】

- 東海道の他の宿場町との連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【行政】

戦略D | 魅力的な環境づくり

品川区を訪れる多くの人に、安全、快適に品川区の魅力に触れ、楽しんでもらうためには、観光客の観光行動の基盤となるインフラ、環境を整えることが非常に重要です。

そこで、「①観光拠点・交通インフラの充実」「②公共空間の観光活用の推進」「③良好な景観形成」「④情報インフラの充実」「⑤安全・安心な観光地づくり」という5つの視点から、品川区を訪れる観光客が快適な時間を過ごせるような環境づくりを進めます。

施策D-1 観光拠点・交通インフラの充実

品川区の観光振興を図るためには、多くの観光客が利用する観光拠点や、移動手段としての交通インフラの充実を図り、国内外の観光客の方々が安心、快適に区内を回遊できる環境を整えることが重要です。

このため今後は、観光の拠点となる水辺、船着場、バスターミナルの整備・活用を図ると共に、道路や公衆トイレの改良・整備など、安全で快適な回遊を促すための交通インフラの充実を図っていきます。

更に、「手荷物預かりシステム」の導入や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた「両替所」の設置・普及など、国内外からの観光客が快適に区内を巡れるための仕組みについて検討していきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆水辺の環境整備

- 水辺の魅力に気軽に親しめる親水空間の整備 【行政】
- ウォーキングやランニングに適した遊歩道などの整備 【行政】
- 水辺の環境整備（緑化等） 【関連団体、行政】

◆五反田リバーステーションの整備

- 五反田リバーステーションの活用方策の検討 【行政】
- 五反田リバーステーションの整備 【行政】

◆大崎駅西口バスターミナルの活用

- 高速バスが発着する品川区の新たな玄関口としてのバスターミナル活用 【関連団体、行政】

◆安全で快適な回遊を促すためのインフラ整備

- 公衆トイレ等の改良・整備 【行政】
- 自転車レーンの整備 【行政】

- 道路におけるバリアフリー化の推進 【行政】
- コミュニティサイクルの導入検討 【事業者、行政】

◆国内外からの観光客の快適な区内回遊を促すための仕組みの検討

- 鉄道駅や観光拠点における「手荷物預かりシステム」の導入検討 【事業者、観光協会、行政】
- 「両替所」の設置に向けた検討 【事業者、観光協会、行政】

施策D-2 公共空間の観光活用の推進

近年、河川空間や道路空間を、地域の活性化、賑わいの創出のために積極的に活用する試みが全国で展開されています。品川区においても、五反田ふれあい水辺広場の河川空間を活用して、ケータリングカー営業の社会実験に取り組んできました。こうした公共空間の新たな活用は全国的な動向でもあり、観光振興、地域活性化、賑わい創出などにおいて大きな効果を発揮するものです。

このため今後の観光振興においては、品川区の特徴である河川や運河、道路といった公共空間の観光活用に取り組み、こうした公共空間を活かした地域の活性化、賑わい創出を図っていきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取り組み主体

◆河川や運河、道路等の観光活用

- 河川空間や道路空間を活用したケータリングカーやオープンカフェ等の社会実験 【事業者、行政】
- 河川空間や道路空間を活用したイベント等の開催 【事業者、行政】

施策D-3 良好な景観形成

品川区ではこれまでも、旧東海道品川宿や戸越銀座における道路景観整備など、快適な回遊を促すための景観整備などを実施してきました。また、「品川区景観計画（平成23年1月策定）」では、歴史や水辺等に配慮した景観形成を図ることを景観まちづくりの基本方針として掲げています。また同計画では、品川浦・天王洲周辺を「水辺景観形成特別地区」に、旧東海道品川宿周辺を「重点地区」にそれぞれ指定すると共に、「旧東海道および北馬場通り（品川宿地区）」「戸越公園（旧細川家下屋敷跡）」「目黒川」を景観重要公共施設に指定し、特に景観形成を推進することとしています。これらの地区・施設は何れも、観光面においても重要な拠点となるものです。

更に今後を目を向ければ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の競技会場で

ある「大井ふ頭中央海浜公園」（ホッケー、ブラインドサッカー）、「潮風公園」（ビーチバレー）の周辺には、大会の前後区間を含めて国内外から多くの観客、マスコミ関係者等が訪れることになります。

今後の観光振興においては、「品川区景観計画」に基づいて、拠点となる地区や施設の景観形成を図ると共に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、競技会場周辺の景観整備について東京都と連携して取り組んでいきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆「品川区景観計画」に基づく景観整備・景観形成

- 水辺景観形成特別地区、重点地区における良好な景観形成の促進 【行政】
- 良好な景観形成に配慮した景観重要公共施設の整備 【行政】

◆五輪競技会場周辺における景観整備

- 五輪競技会場周辺道路における無電柱化の推進 【行政】
- 五輪競技会場周辺道路における緑化の推進（街路樹等） 【行政】

施策D-4 情報インフラの充実

多くの観光客に快適に区内を回遊してもらうためには、観光地を巡るための情報取得の機会を提供することが重要です。特に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の見据えた場合、外国人観光客への情報提供の仕組みを整えることが非常に重要となります。

このため、今後の観光振興にあたっては、区内各所に設置されている案内サインの充実（拠点などにおける整備、多言語化）や、Wi-Fiスポットの整備などを推進し、情報取得にストレスの少ない観光都市を目指していきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆案内サインの充実 【行政】

- 観光拠点や交通結節点等における案内サインの整備 【行政】
- 案内サインの多言語化 【行政】

◆Wi-Fiスポットの整備 【事業者、行政】

施策D-5 安全で安心な観光都市の形成

品川区を訪れる観光客の方々に、安心して楽しい時間を過ごして頂くためには、安全な観光都市づくりを進めることが極めて重要です。特に近年は、東日本大震災の発生や、世界各

地でのテロの発生などの影響もあり、観光地における安全対策に注目が集まっています。さらに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて今後ますます外国人観光客が増えていった場合、生活習慣の違いによるトラブルなどが起こる可能性もあります。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、観光拠点におけるバリアフリー化や、災害時の観光客への適切な対応方策の検討、マナーや治安の向上に向けた取り組みを進めるなど、安全で安心な観光都市づくりを推進していきます。

＜施策の展開例＞

※ 【 】 内は想定される取組み主体

◆観光拠点におけるバリアフリー化の推進

- 駅構内や駅前などの交通結節点のバリアフリー化の推進 【事業者、行政】
- 公園のバリアフリー化の推進 【行政】

◆災害時の観光客への適切な対応方策の検討

- 災害時の観光客（外国人含む）への適切な情報提供方法の検討 【行政】
- 災害時の観光客（外国人含む）の一時避難場所の検討 【行政】

◆マナー、治安の向上に向けた取り組みの推進

- 観光客のマナー向上のための啓発活動の実施 【観光協会、行政】
- 治安の維持・向上に関する取組みの検討 【行政】

戦略E | しながわ観光を支える体制の充実

品川区の観光振興を図る上では、魅力的なコンテンツづくりや、情報発信、基盤となる環境づくり等に加えて、観光客を迎え、もてなすための体制を整えることが必要不可欠です。

そこで、「①担い手の育成」「②推進組織への適切な支援」「③外国人観光客の受入れ体制強化」「④観光統計等の整備」という4つの視点から、しながわ観光を支える体制の充実を図ります。

施策E-1 担い手の育成

品川区を訪れる観光客の方々に心地よく時間を過ごしてもらうためには、観光に係る人々がおもてなしの心を持って観光客に接し、品川区の魅力や情報を伝えることが重要です。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた場合、観光に係る人ばかりでなく一般の区民の方々も観光客に接する機会が増えるものと考えられるため、区民にもおもてなしの心や作法を広めていくことが重要です。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、観光に対する区民意識の醸成や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えたおもてなしの向上、観光ボランティアの育成に取り組んでいきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆観光に対する区民意識の醸成

- 区民が品川区の観光的魅力に触れる機会の創出（区民を対象にした区内観光資源ツアーの開催等） 【行政】

◆2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えたおもてなしの向上

- 外国人を含めた観光客に対するおもてなし向上のための講座等の開設 【行政】

◆観光ボランティアの育成

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の見据えた観光ボランティアの育成（アクティブシニア等） 【行政】
- 観光ボランティアガイドの育成 【関連団体、観光協会、行政】
- 区内在住外国人、留学生を活用した外国人対応の観光ボランティアの育成 【関連団体、観光協会、行政】

施策E-2 推進組織への適切な支援

品川区の観光振興を円滑に実施していくためには、その推進において中心的な役割を担う観光協会への支援が必要です。また、事業者を中心とした観光産業の振興という視点に加えて、“まちづくりの一環としての観光”“区民も楽しめる観光”といった視点も重要となる品川区の都市型観光においては、こうした区民や地域主体の観光まちづくりの活動団体への適切な支援も重要となります。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、一般社団法人しながわ観光協会への支援を継続的に実施していくと共に、必要に応じて、区民や地域主体の観光まちづくりの活動団体への支援を行っていきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆一般社団法人しながわ観光協会への支援 【行政】

◆観光まちづくりを担う団体等への支援

- 区内各地域の観光まちづくりの推進組織、観光ボランティア（ガイド、学生等）への必要に応じた適切な支援 【行政】

施策E-3 外国人観光客の受入れ体制強化

近年の訪日外国人観光客の増加、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催などを踏まえ、外国人観光客の受け入れ体制の強化を図っていきます。また、一般の住宅や空き家を宿泊施設として観光客に貸す「民泊」については2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催までに、その是非も含めて、そのあり方を関係機関とともに検討していきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆外国人観光客が楽しめる観光プログラムの開発 【事業者、観光協会】

◆外国語対応可能な人材の育成 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆外国人観光客が安心して飲食を楽しめる仕組みづくり

- 飲食店メニューの多言語化 【事業者、関連団体】
- 宗教や文化に配慮した食の提供 【事業者、関連団体】

◆品川区における民泊のあり方の検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

施策E-4 観光統計等の整備

観光振興を効果的、効率的に進めていくためには、これまでの取り組みの成果や課題を明らかにし、次の観光施策の展開に活かしていくことが重要となります。

このため、取り組みの成果や課題を明らかにするための基礎的データとして観光統計の整備を進めます。また、観光統計をもとに取り組みの成果・課題を検討し、観光関連施策へ適切にフィードバックします。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取り組み主体

◆基礎的な観光統計の整備

- 主要な集客施設への入込客数データ等の収集・整理 【行政】
- 観光ツアー等の参加者に対するアンケート調査の実施 【行政】

◆観光統計を活用した取り組み成果・課題の検討と施策へのフィードバック

- 観光統計の「品川区都市型観光プラン」の中間見直しなどへの活用 【行政】

「品川区都市型観光プラン」戦略・施策と施策の展開例 一覧（1/3）

戦略	施策	施策の展開例	具体例	具体例における役割			
				事業	運営	協賛	行政
【基本戦略A】 観光コンテナーの充実 ～しながわならではの過 ごし方の提供～	施策A-1：ウォーターフロントを核とし た賑わい創出	水辺の観光利用の促進	水辺を活用したイベント等の開催	○	○	○	○
			ケータリングカーの設置等、水辺に親しんでもらうための仕掛けづくり	○			○
			まち歩きや散策ルートとしての水辺の活用	○	○	○	
			Eポートやカヤック等の水上スポーツの場としての活用		○		
	観光舟運の活性化	天王洲・品川浦地区における「水辺・舟運の観光拠点」の形成	区内の水辺、桟橋・船着場の新たな観光活用・活性化施策の検討				○
			舟運を活用した各種観光ツアー、観光プログラムの充実	○			○
			まち歩きツアーとの連携（「まち歩き」＋「舟運」のパッケージツアー等の開催	○			○
			区内船着場の利活用方策の検討				○
	商店街と連携した集客イベントの開催	商店街と連携した集客イベントの開催	舟運の活性化に関する東京都や周辺区との調整・検討				○
			舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進	○			○
			観光デッキや船着場等を活用した水辺の賑わい創出（イベント開催、水辺への飲食店等の誘致）	○			
			舟運事業者との連携による新たな観光ツアー、観光プログラムの充実	○			○
	商店街と連携した集客イベントの開催	商店街と連携した集客イベントの開催	舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進	○			○
			船着場と品川区内の船着場を結ぶ舟運ルートの検討	○			○
			「水辺・舟運の観光拠点」として継続的なPR	○			○
			商店街と連携した集客イベントの開催	○			○
【基本戦略B】 歴史資源を活かした観光の推進	施策A-2：商店街を活用した観光の推進	商店街と連携した集客イベントの開催	集客イベントへの支援				○
			歴史的資源を巡るツアー等の開催				○
			文化行政との連携による、歴史的資源の観光活用の推進（品川歴史館と連携した講座、ツアー等の開催）				○
			坂本龍馬、伊藤博文、板垣退助などの縁の地域との連携イベントの実施		○	○	○
	施策A-3：歴史めぐり観光の推進	明治維新150周年に際する取組みの推進	明治維新150周年記念イベントの開催		○	○	○
			（After 五輪）五輪レガシーを活用したスポーツイベントの積極的な誘致		○		○
			（Before 五輪）五輪開催に向けた関連スポーツイベントの開催		○		○
			ウォーキングやランニング、サイクリング等の身近なスポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備）		○		○
	施策A-4：スポーツ観光の推進	「見る」スポーツ観光の推進	運河や河川の水辺を活用したEポートやカヤック等の水上スポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備）		○		○
			区民が参加できるスポーツイベント等の開催		○		○
			アートイベントの積極的な誘致・開催	○	○		○
			民間主体の文化・芸術イベントへの支援				○
	施策A-5：文化・芸術観光の推進	演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な誘致・開催	アートイベントの積極的な情報発信・PR				○
			商店街や飲食店と連携したアフター5イベントの開催	○			
			舟運事業者との連携によるナイトクルーズ	○			
			アフター5観光の情報発信	○	○	○	
【基本戦略C】 しながわの魅力を最大限に活かす観光の推進	施策A-6：しながわショートの推進	品川駅や羽田空港利用者をターゲットとした「しながわショートトリップ」の推進	品川駅や羽田空港からの出発前の数時間に対応した観光プログラムの開発	○			○
			鉄道駅を起点として、周辺の観光資源（商店街、歴史資源、水辺・公園等）を巡る短時間の回遊ルートの検討	○			○
			大崎駅西口バスターミナル周辺の観光資源を巡る短時間の回遊ルートの検討		○		○

「品川区都市型観光プラン」戦略・施策と施策の展開例 一覧(2/3)

戦略	施策	施策の展開例	具体例	具体例における役割例		
				事業者	関連団体	観光協会
【基本戦略B】 情報発信の強化	施策B-1：観光案内拠点の更なる充実	既存の観光案内拠点の機能強化	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた外国人観光客対応の強化			○
		鉄道駅など交通拠点における観光案内機能の強化	鉄道駅における観光案内拠点の設置検討	○	○	○
	施策B-2：多様な媒体を活用した情報発信	インターネット環境を活用した情報発信の充実	ホームページ情報の適切な更新・充実	○	○	○
		紙媒体による情報発信の継続	SNSやブログ等の個人の口コミ情報に着目した情報発信			○
		紙媒体による情報発信の継続	観光マップや観光パンフレットの発行・配布	○	○	○
		紙媒体による情報発信の継続	マスメディアへの適切な情報提供	○	○	○
		紙媒体による情報発信の継続	テレビ番組などのロケ地の積極的な誘致			○
	施策B-3：情報の一元的集約と発信	区内の各地域で開催される小規模な祭礼、イベントの情報を一元的に管理するための仕組みの構築	観光協会への情報集約の仕組みづくり	○	○	○
		しながら年間イベントカレンダーの公開・情報発信	観光協会のホームページを活用した、年間イベントカレンダーの公開・情報発信	○	○	○
	施策B-4：他地域や宿泊・交通事業者等との連携によるプロモーション	東京都や近隣区等との連携による観光プロモーションの実施	東京都や国が主催する観光プロモーションへの参画			○
【基本戦略C】 連携による魅力の向上	施策C-1：外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化	品川区の姉妹都市、友好都市へのプロモーションの実施	品川区広域連組における区内観光情報の掲載	○		○
		品川区の姉妹都市、友好都市へのプロモーションの実施	品川区広域連組における区内観光情報の発信			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
	施策C-2：区内の観光客施設との連携による魅力の向上	品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
【基本戦略C】 連携による魅力の向上	施策C-3：関連産業との連携による魅力の向上	品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○
		品川区と隣接する多言語圏	品川区と隣接する多言語圏の多言語圏			○

「品川区都市型観光プラン」戦略・施策と施策の展開例 一覧(3/3)

戦略	施策	施策の展開例	具体例	具体例における役割例			
				事業者	関係団体	観光協会	行政
【基本戦略D】 魅力的な環境づくり	施策D-1：観光拠点・交通インフラの充実 施策D-2：公共空間の観光活用 施策D-3：良好な景観形成 施策D-4：情報インフラの充実	水辺の環境整備	水辺の魅力に気軽に親しめる親水空間の整備 ウォーキングやランニングに適した遊歩道などの整備 水辺の環境整備（緑化等）				○
		五反田リバーセッションの整備	五反田リバーセッションの活用方策の検討		○		○
		大崎駅西口/バスターミナルの活用	五反田リバーセッションの整備 高速バスが到着する品川区の新たな玄関口としてのバスターミナル活用			○	○
		安全で快適な回遊を促すためのインフラ整備	公衆トイレ等の改良・整備 自転車レーンの整備 道路におけるバリアフリー化の推進 コミュニティサイクルの導入検討				○
		国内外からの観光客の快適な区内回遊を促すための仕組みの検討	鉄道駅や観光拠点における「手荷物預かりシステム」の導入検討 「問答所」の設置に向けた検討	○		○	○
		河川や道路等の観光活用	河川空間や道路空間を活用したターゲットカーやオープンカフェ等の社会実験 河川空間や道路空間を活用したイベント等の開催	○			○
		「品川区景観計画」に基づく景観整備・景観形成	水辺景観形成特別地区、重点地区における良好な景観形成の促進 良好な景観形成に配慮した景観重要公共施設の整備				○
		五輪競技会場周辺における景観整備	五輪競技会場周辺道路における無電柱化の推進 五輪競技会場周辺道路における緑化の推進（街路樹等）				○
		案内サインの充実	観光拠点や交通結節点等における案内サインの整備 案内サインの多言語化				○
		Wi-Fiスポットの整備	-	○			○
		観光拠点におけるバリアフリー化の推進	駅構内や駅前などの交通結節点のバリアフリー化の推進 公園のバリアフリー化の推進	○			○
		災害時の観光客への適切な対応方策の検討	災害時の観光客（外国人含む）への適切な情報提供方法の検討 災害時の観光客（外国人含む）の一時避難場所の検討				○
		マナー、治安の向上に向けた取り組みの推進	観光客のマナー向上のための啓発活動の実施 治安の維持・向上に関する取り組みの検討			○	○
		観光に対する区民意識の醸成	区民が品川区の観光的魅力に誇れる機会の創出（区民を対象にした区内観光資源ツアーの開催等）				○
【基本戦略E】 しながわ観光を支える体制の充実	施策E-1：担い手の育成 施策E-2：推進組織への適切な支援 施策E-3：外国人観光客の受入れ体制強化 施策E-4：観光統計等の整備	観光ボランティアの育成	外国人を含めた観光客に対するおもてなしのための講座等の開設 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の見据えた観光ボランティアの育成（アクティビシニア等） 観光ボランティアガイドの育成 区内在住外国人、留学生を活用した外国人対応の観光ボランティアの育成		○	○	○
		一般社団法人しながわ観光協会への支援	-				○
		観光まちづくりを担う団体等への支援	区内各地域の観光まちづくりの推進組織、観光ボランティア（ガイド、学生等）への必要に応じた適切な支援				○
		品川区における民泊のあり方の検討	-	○	○	○	○
		外国人観光客が楽しめる観光プログラムの開発	-	○	○	○	○
		外国語対応可能な人材の育成	-	○	○	○	○
		外国人観光客が安心して飲食を楽しめる仕組みづくり	飲食店メニューの多言語化 宗教や文化に配慮した食の提供	○	○	○	○
		基礎的な観光統計の整備	主要な集客施設への入込客数データ等の収集・整理 観光ツアー等の参加者に対するアンケートの実施	○			○
		観光統計を活用した取組み成果・課題の検討と施策へのフィードバック	観光統計の「品川区都市型観光プラン」の中継見直し等への活用				○

第5章 実現化に向けた推進体制

本プランの第4章に示した基本戦略とそれに基づく施策は、しながわ観光の振興にとって基本的なメニューを示したものですが、各施策を個別・単発的に実施しても大きな成果・効果をあげることはできません。

ここでは、区全体でしながわ観光の各施策の実現化に向けて取り組むための推進体制のあり方について整理します。

5-1 各主体の役割

品川区都市型観光プランを推進する力となり、今後の品川区の都市型観光を担うのは、これまでのしながわ観光を支えてきた、しながわ観光協会やまちづくり協議会、NPO、ボランティア組織など、知恵と経験の蓄積を有する個々の人の「輪」です。

品川区都市型観光プランの実現化に向けては、こうした地域の人々の力を結集し、区としながわ観光協会が中心的な役割を担い、観光に関わる各主体がそれぞれの役割を明確に理解し、官民の密接な連携のもとで取組みを進めていくことが重要となります。

◆品川区の役割

区は、主に、都市型観光プランの進行管理、区全体の観光振興施策の企画・立案を推進していきます。また、行政としての重要な役割である、庁内における横断的な連携による観光振興に関連する基盤整備や関連団体、地域等の観光振興の取組みへの協力・支援などにも取り組んでいきます。他に、観光振興に資する人材の育成・活用やシティプロモーションの推進、他自治体と連携・協力した広域的な観光振興の促進も図ります。

◆しながわ観光協会の役割

しながわ観光協会は、区と連携した、都市型観光プランの実現に向けた事業等の展開、関連団体や地域等の観光振興の取組みへの協力・支援に取り組んでいきます。また、観光に関する調査、研究、資料の収集及び情報発信の役割も担います。

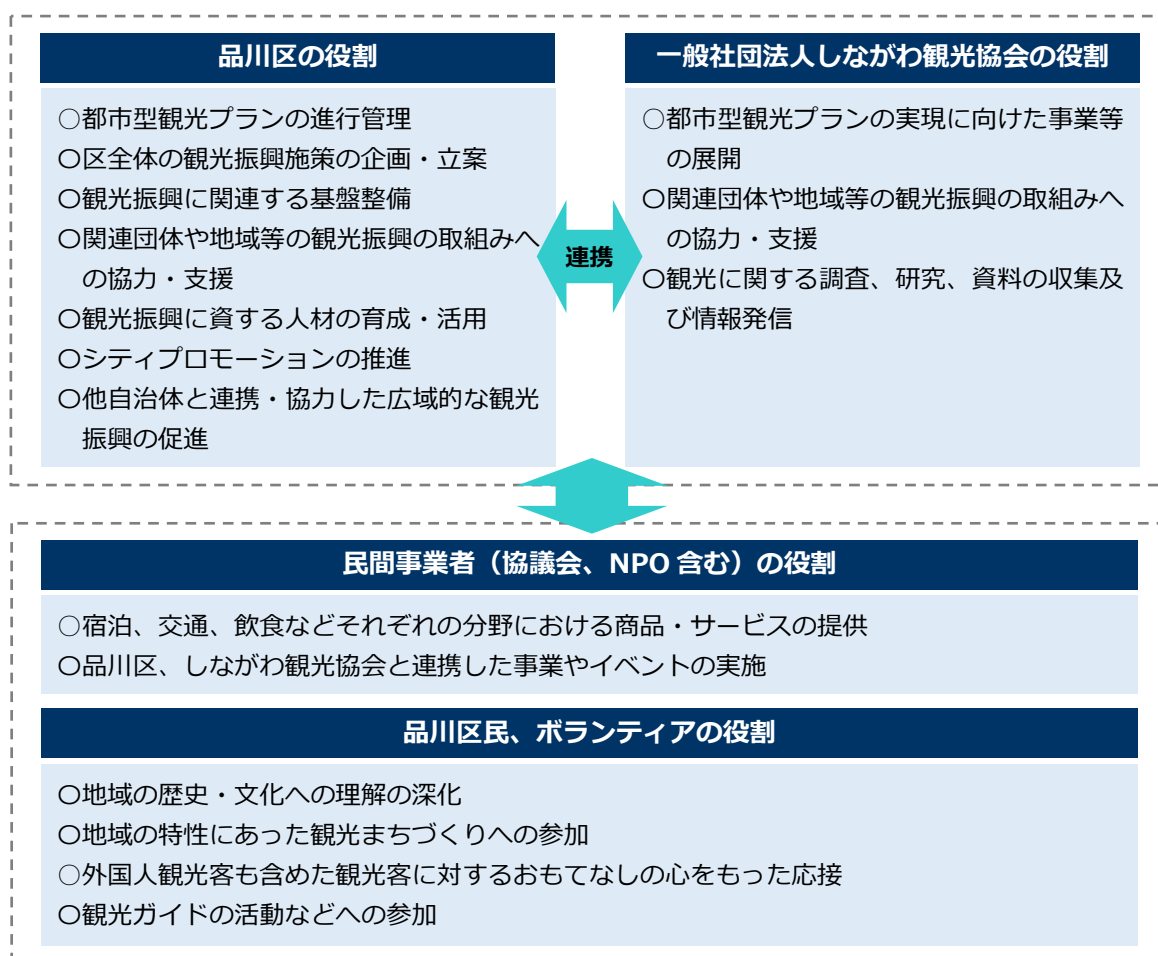
◆民間事業者（協議会、NPO含む）の役割

まちづくり協議会やNPO、観光事業者や交通事業者などの民間事業者については、宿泊、交通、飲食など、それぞれの事業分野における商品・サービスの提供を推進していきます。また、事業やイベントを実施するにあたり、区やしながわ観光協会との連携し、区内の相乗効果を高めていくことも重要です。

◆品川区民、ボランティアの役割

品川区民、ボランティア団体については、地域の歴史・文化への理解を深め、自らしながわ観光を楽しむこと、地域の特性にあった観光まちづくりへ参加することを促進していきます。また、外国人観光客も含めた観光客に対するおもてなしの心をもった応接や観光ガイド活動などへの参加も重要な役割となります。

各主体の役割



5-2 観光振興の推進体制の強化

しながわ観光の推進にあたっては、これまで、しながわ観光協会との連携を中心とし、区内事業者や関連団体と協力し、品川の都市型観光を総合コーディネートしていく組織体制づくりに努めてきました。これからの10年間については、これまでの関係の蓄積をもとに、各主体がより活動しやすい推進体制をめざした組織の連携強化と機能強化が必要となります。

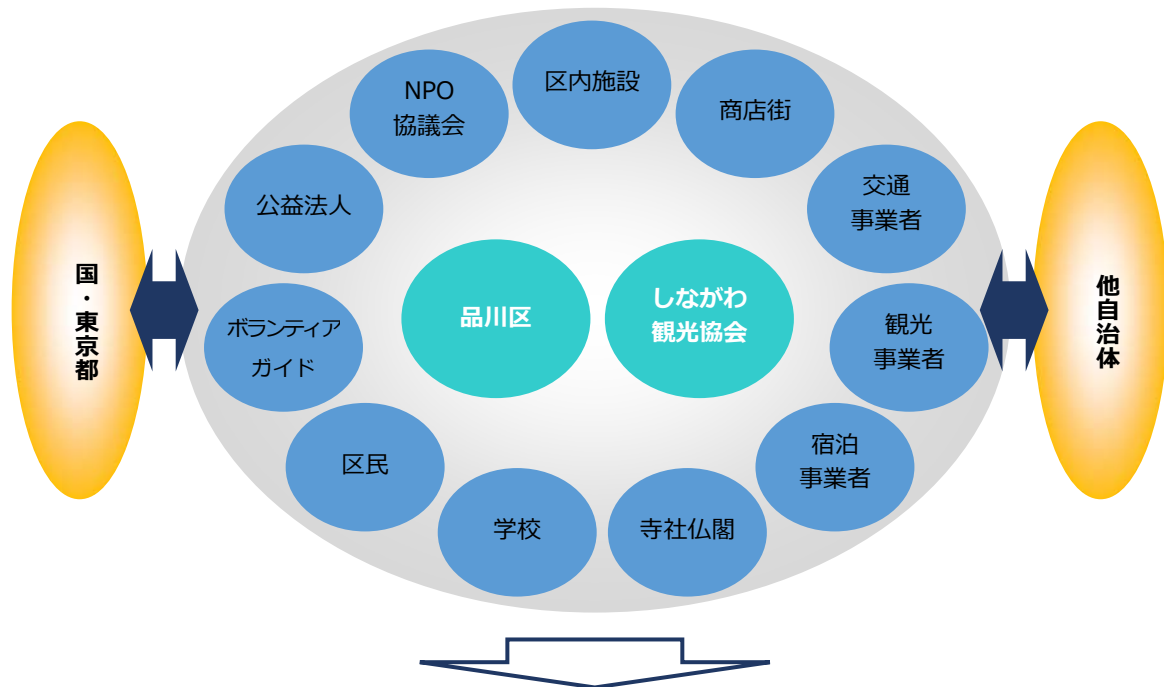
◆様々な主体が参画する協議会組織の設立と本プランの具現化に向けた取組み推進

観光に関連する分野は多岐に渡り、今後もさまざまな主体が関わってくる可能性があります。それらの主体がより活動しやすく、また、その活動内容をより良いものにしていくためには、各主体が緩やかに連携し、必要に応じて情報交換や連携・協力ができるような仕組みを構築することが重要です。

今後のしながわ観光の推進にあたっては、「品川区」と「しながわ観光協会」を中心に、観光に関わる民間事業者や団体のみならず、区民や一般の民間事業者・団体といったこれまで観光に直接的に関わりの少なかった様々な主体が参画する協議会を設立し、“オールしながわ”で観光振興、観光まちづくりを推進するための体制づくりを行います。

このように、従来は必ずしも直接的に観光に関わってこなかった様々な主体の参画を促すことで、本プランで定めた「しながわ観光のコンセプト・目標（本プラン第3章）」や「しながわ観光の戦略と施策（同第4章）」をより多くの主体と共有し、こうした様々な主体と連携・協働して本プランの実現化を図っていきます。

様々な主体が参画する協議会のイメージ



“オールしながわ”での観光振興、観光まちづくりの推進

- ・主体間の情報交換、連携・協力の促進
- ・「品川区都市型観光プラン」の実現化・具現化